

執筆集

～人と
人を結ぶ～
結
ゆい

編集・発行：食育のふるさと 阪谷をよくする会

協力：阪谷公民館

発行日：令和4年11月



有機の里 阪谷のマスコット
さかずきんちゃん

「結」 ～人と人を結ぶ～ とは…

平成23年から毎月、阪谷公民館報の中で阪谷地区の
みなさんがバトンをつないで執筆しているコーナーです !!

『「結」～人と人を結ぶ～執筆集』発行にあたって

食育のふるさと阪谷をよくする会
会長 中 出 良 一

毎月発行されている阪谷公民館報。その中にある「結 ～人と人を結ぶ～」のコーナーは、阪谷地区において執筆者が次の執筆者にバトンを渡す形で、平成23年の開始から約130人のみなさんのリレーによって今も続いています。

今回、当会にて、開始された平成23年5月から令和4年3月までの記事を執筆集として冊子にまとめ発行いたしました。

この10年以上続いているみなさんの想いのバトンリレーこそが、まさに人と人との結びつきであり「結」と言えるのではないのでしょうか。

ぜひ、一度ご覧いただき、地域のみなさんのいろいろな想いとつながりを感じていただけたら幸いです。

なお、このたびの発行にあたり、記事の収集などご協力をいただいた阪谷公民館ならびに関係者の方々に心からお礼申し上げます。また、今後とも本会の活動にご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



★以下に、「結」のコーナーが開始された当時の阪谷公民館長である田原祐子さんが執筆したスタートの記事を紹介します。

徒然なるままに

今月の館報より、新企画が始まった。地区の皆様は順次ご登場いただき、思いを伝えていただくコーナーだ。ネーミングを「人と人を結ぶ 結（ゆい）」とした。

着任以来、何かできないか…と考えてきたが、「書いて下さる方が途中でとぎれたらどうしよう」「途中で止めるくらいならしないほうが…」と案じて1歩が踏み出せなかった。「やってみなくちゃわからない」冒険をするには、いい年を越えた分別が邪魔をした。

5年目を迎え、ようやく決断がついた。「やってみなくちゃわからない。」「先の未来を案じるよりも、一生懸命の今の積み重ねが未来なのだ。」と。ずいぶん遅いが、実行に移せただけましだと言い訳しつつも…

まずトップバッターを阪谷地区区長会長 黒田宗雲氏にお願いした。快く引き受けてくださった。心から感謝申し上げます。

夢を乗せて、結のバトンリレーはスタートを切った。思いを繋ぐ、人を繋ぐ、人を結ぶ、地域を結ぶそんなコーナーになっていったらいいと思う。

このバトンが渡されたときは、どうぞ受取りいただき、執筆いただきますようお願い申し上げます。

南六呂師 田原 祐子

結（ゆい） 投稿者名簿

号数	年月日	氏 名	地区	題 名
4ページ				
No282	H23.5	黒田 宗雲	堂嶋	望月のころ
No283	H23.6	松村 秀彦	南六呂師	東日本大震災に思う
No284	H23.7	起橋 信之	松丸	阪谷小学校と桜
No285	H23.8	加藤 和典	石谷	阪谷の山はいすこへ
5ページ				
No286	H23.9	宮下 智美	花房	阪谷を元気にしたい！
No287	H23.10	藤堂 朱実	蓑道	災害の準備は大丈夫でしょうか？
No288	H23.11	清水 光夫	落合	貴重な石臼
No289	H23.12	野口 秀子	伏石	私の夢
6ページ				
No290	H24.1	岩本喜代英	松丸	村祭りの今昔
No291	H24.2	岩田 美子	不動堂	劇団チャップスから文化の発信！
No292	H24.3	山村 福和	柿ヶ嶋	私のふたつの取り組み
7ページ				
No293	H24.4	宮下奈津美	花房	LOVE さかだに
No294	H24.5	長谷川順子	大月	時の流れと共に
No295	H24.6	松村 秀彦	南六呂師	より善く生きるということ
No296	H24.7	中尾 裕子	花房	見守り活動について
8ページ				
No297	H24.8	岸本 淳	森本	PTA活動@廃品回収について
No298	H24.9	山腰 一彦	南六呂師	二学期もがんばりましょ
No299	H24.10	宮崎 真紀	伏石	わたしのふるさと阪谷は 夜は星がまんかいでおまつりしているみたいで きれいです
No300	H24.11	山村 倫代	柿ヶ嶋	「芸術の秋」
No302	H24.12	平岩 朋恵	八町	カイロプラクティック&エステTAIYOU
9ページ				
No303	H25.1	向川 和美	南六呂師	阪谷に来て
No304	H25.2	高地 敦子	南六呂師	私の宝物
No305	H25.3	木下美登里	松丸	阪谷で生きる
No306	H25.4	山本 早苗	松丸	阪谷ふわわ女性の会の会長になって
No307	H25.5	竹林 正彦	花房	社会福祉について
10ページ				
No308	H25.6	加藤 泰子	石谷	『阪谷よいとこ見つけ隊』この指とまれ
No309	H25.7	石塚 憲治	萩ヶ野	食育
No310	H25.8	後川ちづ子	大月	一万本のひまわりありがとう
11ページ				
No311	H25.9	土橋 好孝	金山	僕と農業
No312	H25.10	村中 甚孝	落合	スターランドさかだに
No313	H25.11	幾山 秀一	橋爪	ふるさと阪谷をよくする会
No314	H25.12	石塚 昭夫	萩ヶ野	愛郷
No315	H26.1	中出 良一	八町	元気なふるさとづくりを

号数	年月日	氏 名	地区	題 名
12ページ				
No316	H26.2	南川ふじえ	蓑道	私の老後
No317	H26.3	村上 元希	蓑道	あしあと
No318	H26.4	多田佐智子	森本	6年目にして思うこと
No319	H26.5	山本喜美代	松丸	ふれあい
13ページ				
No320	H26.6	黒田ちづ子	堂嶋	サクラサク
No321	H26.7	岩本喜代英	松丸	行ってこさほっとサロン
No322	H26.8	岩田 美子	不動堂	演劇教育で生み出す力！
14ページ				
No323	H26.9	山村 福和	柿ヶ嶋	ピザ窯を作ろう！
No324	H26.10	矢尾 政士	南六呂師	農家民宿「このは」を始めました
No325	H26.11	岩本清 他	南六呂師	六呂師高原特産物会
No326	H26.12	稲津 直美	南六呂師	大野消防団「結の故郷女性分団」として
15ページ				
No327	H27.1	前田 千鶴	柿ヶ嶋	子供会活動を通して
No328	H27.2	湯口和歌子	南六呂師	子育てクラブ
No329	H27.3	辻 薫	橋爪	子どもに伝えたい阪谷の良さ
16ページ				
No330	H27.4	新保 裕子	柿ヶ嶋	次世代に伝えていきたい
No331	H27.5	加藤 美紀	石谷	子育てをして思うこと
No332	H27.6	前田 真弓	大月	自然とともに
17ページ				
No333	H27.7	森 好美	不動堂	楽しみにしていること
No334	H27.8	木下 幸子	伏石	阪谷に戻って
No335	H27.9	山口 玲子	伏石	言葉で感じる
No336	H27.10	笹山 晃一	森本	阪谷でソフトバレー!!
18ページ				
No337	H27.11	前田 浩鑑	森本	クロスカントリースキー
No338	H27.12	多田 直史	松丸	少子化と教育
No339	H28.1	村上 理絵	蓑道	阪谷に住み始めて…
No340	H28.2	村中 尚美	落合	阪谷の魅力を伝える
19ページ				
No341	H28.3	山上理恵子	伏石	自然の中の子育て
No342	H28.4	木下八千代	松丸	さくらんぼ愛育会について
No343	H28.5	石塚英里奈	不動堂	自然の中の子育て
No344	H28.6	山本 恵美	八町	子育て
No345	H28.7	川端 真実	八町	阪谷でみつけた宝物
No346	H28.8	横田 真美	大月	新たな阪谷
20ページ				
No347	H28.9	林 八千代	不動堂	懐かしいミニバス時代
No348	H28.10	岩本喜代英	松丸	如露を発明した人
No349	H28.11	黒田ちづ子	堂嶋	国体の花を咲かせましょう
No350	H28.12	野口 秀子	伏石	阪谷人の私

号数	年月日	氏 名	地区	題 名
21ページ				
No351	H29.1	岸下 圭子	橋爪	縁（えにし）
No352	H29.2	山腰 文雄	花房	思（おもい）
No353	H29.3	石塚 廣美	萩ヶ野	母と過ごした日々
No354	H29.4	後川 昌晃	大月	阪谷に生まれて
No355	H29.5	田原 祐子	南六呂師	第二の人生
No356	H29.6	長谷川昌子	南六呂師	元気の泉・書道
22ページ				
No357	H29.7	長谷部祐円	南六呂師	阪谷地区戦没者慰霊祭に参勤して
No358	H29.8	村上美代子	蓑道	阪谷に暮らして
No359	H29.9	山上 耕平	伏石	遊びと学びのフィールド
No360	H29.10	水本 剛志	花房	プレ大会の自転車競技を応援
23ページ				
No361	H29.11	中尾 繁史	花房	ずっとお元気で！
No362	H29.12	中尾 友香	花房	阪谷はええとこやの～
No363	H30.1	宮田 勇貴	伏石	気を付けていただきたいこと
24ページ				
No364	H30.2	多田 将也	松丸	Hill Valley
No365	H30.3	番屋久美子	伏石	越して来て…
No366	H30.4	山本 暁慧	松丸	また1年
No367	H30.5	黒田 宗雲	堂嶋	福祉のこころ
25ページ				
No368	H30.6	岩本喜代英	松丸	ユニフォーム
No369	H30.7	天野 文代	松丸	お客様との絆
No370	H30.8	湯下 繁雄	南六呂師	結いで助け合って開墾
No371	H30.9	川端千津子	松丸	阪谷福寿会の会員になって
26ページ				
No372	H30.10	黒田ちづ子	堂嶋	自分の置かれた場所で
No373	H30.11	伊藤 武雄	橋爪	新たな出会い
No374	H30.12	笹山 晃一	森本	阪谷青年団結成
27ページ				
No375	H31.1	北川 真紀	八町	阪谷地区に移住して
No376	H31.2	萱岡 名月	不動堂	さかだに愛
No377	H31.3	岸本 陸	森本	阪谷を少し離れ、鯖江に住んで
No378	H31.4	玉木 智暁	伏石	地元就職
28ページ				
No379	H31.5	山本 幸臣	伏石	阪谷の四季
No380	H31.6	山本 彩	伏石	愛育会
No381	H31.7	前田 郁美	森本	私のスキー人生
No382	H31.8	村上 玲子	蓑道	顔見知りの人がいるって楽しい！
29ページ				
No383	H31.9	庵下 絹代	蓑道	地域のつながりって心地いい
No384	H31.10	東 富士子	橋爪	掃除を通して…
No385	H31.11	石田久美子	橋爪	自分の人生を振り返って
No386	H31.12	宮越 幸恵	橋爪	コミュニケーション

号数	年月日	氏 名	地区	題 名
No387	R 2.1	森 好美	不動堂	私と子供の今昔
30ページ				
No388	R 2.2	山形 美春	橋爪	私のお気に入りの場所
No389	R 2.3	林 梨絵	落合	自然のあたたかさ
No390	R 2.4	林 大介	落合	阪谷小学校の桜
No391	R 2.5	林 伊三夫	落合	阪谷地区の皆さんへ
No392	R 2.6	林 直希	萩ヶ野	無題
No393	R 2.7	吹明 舜	柿ヶ嶋	ふるさと
31ページ				
No394	R 2.8	多田紗也香	松丸	故郷に帰って感じたこと
No395	R 2.9	中村 英雄	不動堂	2児の父になって
No396	R 2.10	細川 悠太	不動堂	大人になって分かったこと
No397	R 2.11	細川 大毅	不動堂	無題
No398	R 2.12	細道 常貴	南六呂師	無題
No399	R 3.1	川端 真実	八町	無題
32ページ				
No400	R 3.2	里見 るみ	蓑道	阪谷保育園について
No401	R 3.3	山村かすみ	柿ヶ嶋	無題
No402	R 3.4	山村 敏浩	柿ヶ嶋	～人と人を結ぶ～
No403	R 3.5	稲津 菊雄	南六呂師	無題
33ページ				
No404	R 3.6	山中 尚美	八町	最近思う事
No405	R 3.7	村上よしみ	蓑道	無題
No406	R 3.8	伊藤佐智子	松丸	無題
No407	R 3.9	中道 昭代	蓑道	私が分かったこと
34ページ				
No408	R 3.10	岸本さゆり	松丸	これから
No409	R 3.11	石塚 洋子	萩ヶ野	無題
No410	R 3.12	中谷 節子	森本	無題
No411	R 4.1	村口多喜子	伏石	無題
No412	R 4.2	元茂美津子	南六呂師	無題
35ページ				
No413	R 4.3	村上 英華	蓑道	～阪谷に住んで想うこと～



掲載記事は当時の文章をそのまま掲載しています。



黒田 宗雲（堂嶋）

平安末から鎌倉にかけて流浪の旅をした僧にして歌人であった西行法師は、『願はくは花の下にてわれ死なむそのきさらぎの望月のころ』とうたった。桜花爛漫たる今、心に響くものがある。西行は俗名を藤原義清（のりきよ）といい検非偉使左衛門尉に任じられ鳥羽上皇に仕えて院の北面の武士であった。藤原秀郷將軍の嫡流で武門の名譽の家に生まれたが若き日に世の無常を感じて出家し生涯漂泊の歌人でもあった。新古今集には九四首採録され、世阿弥作「西行櫻」として能の幽玄の世界にも登場している。

この法師は願いどおり如月の望月のころ、春秋七十二歳でこの世を終えている。日の本は季節が明らかである。青春・朱夏・白秋・玄冬と移りゆく四季の自然の中に身を委ね閑かに自己を見詰め直すことも必要でありましょう。

いつの時代でもこの世は不条理に満ち満ちている。華やかさの陰に、この世は苦しみと悲しみに満ちている。その中で人間は生きねばならぬ。急がなくてもよいことを急ぎ、争わなくてもよいことを争っている。この悪と苦の渦の中に、あくせくとして勤め働き、それによってやっと生計を保っているのである。

相共に賢愚なること鑑（みみかね）の端なきがごとしである。慙愧（ざんき）なきものを人と為さず、願いは、生きとし生ける命あるものに、他の悲しみを自己の悲しみとし、他の喜びを自己の喜びとする心、慈悲の心をもって今を生きて往きたいものです。
合掌 九拝

松村 秀彦（南六呂師）

二万数千人の死者・行方不明者をだし、しかも福島原発はまだ安定せず、まさに国難ともいふべき状態に今日本はあります。

しかし東北の方々の我慢強さ前向きな姿勢、地域や仲間の結びつきの強さに私たちはもとより海外の方も称賛しているのが救いです。何人もの方々が他の人の避難を助け自らは命を失いました。

去年の十月のある研修会に参加しました。その時、今のような自分さえ良ければ良いという風潮、豊かさに慣れきってはいるが、どこか閉塞感のある社会、金のためには親の死さえ隠して年金を詐取するような人の出現等々こんな日本人を変えるには戦争が大災害しかないのではないかという意見が出ました。

まさかその時はそのことが現実のこととなるなど夢にも思わなかったのですが、今こそ「ばらばらで一緒」「差異を認め結びつきを大切に社会」など日本人の良さ、たくましさ回復していく時なのでしょう。

それにしてもお釈迦様のいうように、まさに無常であり、縁が整えばいかようにもなっていく宿命を私たちは持っていることを知らされました。

仏様は私たちを守っていると思っていましたが、むしろそういう宿命の私を見守っているといったほうが正しいのではないかと考えてきました。

なにはともあれどんな困難にも諦めず乗り越えるしかないのでしょうか。

起橋 信之（松丸）

阪谷公民館で開催された会議に出席した時のことである。

ある出席者から「今年は公民館や学校のまわりの桜の花の咲き方が不揃いであった。なぜだろう。」という話がでた。私はふと小学生の頃を思い出した。昭和15年阪谷尋常小学校松丸分校に入学。この分校にも太い大きな桜の木が1本あった。松丸分校は3年生までで、4年生からは本校(伏石)に行くことになる。本校では校舎の北側に桜の木が何本もあり、花を綺麗に咲かせていたのを覚えている。今公民館横のこの木はその時のものだと思うと懐かしい。

昔の阪谷尋常小学校の位置は、現在の公民館のところは女子の校舎で女子生徒と職員室や裁縫室。今の体育館のところは講堂(室内運動場)で児童と、先生方の玄関。現在の小学校舎は男子の校舎で音楽室や工作室があった。昭和20年敗戦により男女共学となったが、それまでは男女別々の校舎であった。男子校舎横の現在の校庭は山林であった。この時の校庭は現在保育園やプール、駐車場になっている。戦争末期の頃はこの校庭にさつまいを植えて食糧難をしのいだ。したがって外に運動場の無い時期もあった。このような訳で現在の校庭のまわりの桜の木はあまり記憶にないのかもしれない。

近年、小学校の児童数も減少していると同時に桜の木も老木となりつつあるが、美しい花を見るためにも大事に桜の木を管理して後世にこの素晴らしい景観はぜひ残してほしい。

参考：この当時は、阪谷公民館は存在しなくて阪谷村であった。阪谷村役場があり現在の山川医院の敷地にあった。



加藤 和典（石谷）

現在、社団法人阪谷育林会の所有名義となっている山林(192㍔)、旧阪谷村が大野市に合併する以前は村有林として管理し、村内の学校教育の基本財産その他各種公共施設の整備に大きく貢献。しかし、昭和29年9月、阪谷村が大野市に合併するに当たり、合併財産として市に引き継がず、阪谷地区民で管理し、地区内の各種公共施設の維持あるいは拡充を図る目的で、社団法人阪谷育林会が設立され、今日に至っている。

ところが、公益法人制度を悪用する事例が続発したため国が法律を改め、公益事業が行えない場合は25年秋迄に解散せよとのこと。公益法人存続条件は遊休財産の二分の一以上の事業をすること。育林会としても鳥獣害対策事業【例】等を展開して存続を図りたいが、数年後には無一文になり、逆に維持するための金策が不可欠。一方、解散するには受け皿が必要。公益法人としての性格上、個人や会社組織等への売却は不可能。しからばと国や県・市にお願いしても買取は無論、譲渡にも冷たい返事。

そこへ浮上してきたのが受け皿としての地縁団体。しかし、自治法上の制約もあって阪谷地区を全体とする地縁団体が立ち上げられず、理事会としては苦肉の策、地区内既存の五地縁団体のどこかに受け皿になってもらえないかという方向で一致。

水の涵養・森林保全・環境維持などどれも将来の阪谷にとって大変大切な問題、一緒に考えて戴ければ幸いです。



宮下 智美(花房)

夏まつりの大声コンテストにて、審査員特別賞を頂いた私の夢。そんな夢を実現したい。

私は、阪谷放課後子ども教室の安全管理員と阪谷子育てクラブの見守りをさせて頂くようになって、4年目の夏が過ぎました。

今年の夏休み子育てクラブでは、親子遠足・陶芸教室・買い物体験・チビっ子クッキングと毎日楽しく過ごしました。阪谷の将来を担う子ども達の成長に関わる事は、なんと光栄なことでしょう。子ども達を見守り続け、子ども達と一緒に輝いていた。

子ども達が大人になった時、阪谷を愛しこの土地に夢を抱いてくれる、そんな阪谷であってほしい。限界集落が増えつつある阪谷にも、まだまだ眠っている魅力があるはず。

地域づくり交付金を活用した陶芸の里・加工品開発にも関わらせて頂いていますが、必ずや形にしたい!形にすることで阪谷を元気にすることが出来ると信じています。加工品開発では、一緒に活動してくださる方を募集しています。皆さんの参加がパワーになります。

これからも、夢に向かって全力でと言いたのですが、この年齢になると息切れもあり、小さな石ころにもつまずくので、マイペースで一歩一歩前進!阪谷を元気にするために活動していきたいです。

藤堂 朱美(養道)

あの大きな被害を出した阪神淡路大震災から16年が過ぎ、皆の脳裏から遠ざかりつつあった時に、テレビから映し出される大津波の映像は、まるで映画の世界で日本中、世界中に衝撃が走りました。災害は忘れた頃にやってくる。3月11日は正にそうでした。東日本大震災で生死を分けたのは、日々の訓練と準備だと言われています。

そんな中、私は大野市の赤十字奉仕団委員長に。奉仕団は主に奉仕、献血の手伝いや募金活動。また防災訓練、家庭救急法、AEDの使い方等を講習会で学び、災害時に団員として活動できるように、年数回勉強会をしています。

団員の高齢化で、若い人達に引き継いで貰うにはどうすれば良いのかと考えていた矢先でした。

阪谷地区には、団員の居ない地区があります。日本赤十字社は、団員が居なくても災害時には、平等に救援してくれます。しかし救援を持つだけでなく、自分の区は自分達で守る。日頃から出来る範囲以内で訓練、準備することが大事で、赤十字奉仕団分の必要性を皆で真剣に考えて欲しいと、この震災から思いました。東日本大震災は他人事ではありません。いつどこで何が起るかわかりません。災害の準備は大丈夫でしょうか?



清水 光夫(落合)

そばの刈り取りが阪谷地区でも見かける季節になりました。

最近は、早刈りをして香りや風味を好むようになり、昔のように葉が枯れ落ちる頃に手刈りをする風景は、あまり見かけなくなりました。

香りや風味を引き出すには、昔ながらの「石臼で時間を掛け、ゆっくりと粉にする」これが一番良い方法だと、おそば屋さん、おそばを扱っている業者さんは言います。私がそば打ちを始める十五年程前、あるお宅を通りかかると、一人住まいのお母さんが声をかけてきました。「漬物石に使っていたが、重くて動かせない」と言われ手伝いました。すでに横には新しい重石が置いてあり「もう使うあてがないから」と譲り受けることにしました。

私は元もと物作りが好きで、電動で臼として使えるよう改良しました。

それから数年後、「スターランドさかだに」に『スターランドそば愛好会』が立ち上がり、「大野そばまつり」を始め、いろんなイベントに参加するようになり、大量のそば粉を挽く時大活躍しています。いつの時代に、誰が考えたのか分かりませんが、今も変わることなく活躍する貴重な石臼。美味しいおそばを打つのになくてはならない大切な物となっています。



野口 秀子(伏石)

今度ばかりは劣化した海馬(脳細胞)に刺激になった。

このコーナーは投稿者が知人を紹介して、地域の輪と絆を広めていく狙いとの事で、今回指名されたからだ。発案者に賛同して受けた。

さて古びた蓄音機のネジを巻くように、私の今までの人生経験を振り返る。熟年後、介護相談員、キャラバンメイト、入所判定会議に出席などと介護施設を訪問する機会が多かったので、その感想と願望をテーマに決める。

幾日か神戸で研修も受けたが、現状(現場)は会話出来る入所者は殆どいなく、具合が悪ければ入院して食事が摂れないからと、直接胃へ栄養が入るように「胃ろう」増設されて施設へ戻る。延命治療を受け喜怒哀楽を失った状態で延々と介護されている。職員は腰にバンドを巻いて懸命な厚い介護に四苦八苦。入所希望者が増える一方で入所できるのは1ヶ月に2、3名らしい。これが尊厳を守るといことなのかと痛感し、将来を安じた。

たまたま私の甥が愛知県で介護施設を経営している。都会では核家族の老人が、家の管理が重荷になると売却して、キッチン付の上流層向け施設へ入所して優雅に楽しんでいると聞く。

阪谷地区にも施設が出来ないものか。入所者も職員もふるさと帰還者も顔見知りばかりで、そして米や野菜も全部ひっくるめて地産地消。

美景と清流の阪谷、おもてなし上手な阪谷人だから笑顔の施設が出来て介護してもらいたい。それが私の夢。





岩本 喜代英 (松丸)

荒島岳からの風が色づきはじめた稲穂を波打たせていく頃、
県道の電柱には近在の青年会が「大夜角力」や「踊り大会」の張り紙をしてゆき、それは連日続いた。

晩飯を呑み込むように済ませると浴衣を引っ掛け下駄ばきで家を出る。県道まで来ると、ほうぼうの辻から出てきた若者の群れと出会い、連れ立って砂利道を黙々と上っていく。…今夜は伏石の祭りや。

太鼓の音に導かれて参道へ。テントを差し掛けた露天がガス灯を点けて両脇に並び、子どもたちが店先にかぶさるようにして品定めに夢中だ。足元でカンシャク弾がはじいて、周りがどっと笑った。

もう踊りの輪は境内いっぱい。
トツーレロレロトツーレロ、ツウレラレツレトレション、ツラレトレションランラン。音頭取りの軽やかな節回しに、踏み鳴らす下駄の音が反応して響き渡る。世は男と女、卑猥な替え歌も思春期のうららを性教育してくれた。

また名の知れた音頭取り二人が揃うと、東西掛け合いで
♪～お職女郎の白糸こそは～
♪～女房持ちにて二人の子持ち～ など「鈴木主水口説き」という心中話が延々三十分余も続く。

踊りの輪を離れて、隣の土俵を取り巻く人の輪へ。もう夜角力も終盤、勝ち名乗りを受けた若者は拍手と歓声の中、力瘤の盛り上がった肩に青竹の御幣を担いで高々と四股を踏んだ。

角力が終われば力士も観客も踊りの輪へ。音頭取りの声は冴え、踊り手の足拍子に手拍子、星空の夜は更けていく。若いのはいい。疲れは明日の活力になるのだから。

今はどうか…。

つい数十年前の阪谷村の光景を思い描いてみました。

練習・衣装や道具作りと、その頃は阪谷が演劇文化の発信地となっていました。衣装を置かせていただいていた関係もあり、阪谷地区内の様々な活動にもチャップスの衣装をフル活用したものです。実に良き時代であったのかもしれませんが。

年月を経て今では衣装を置かせていただくことが出来なくなり、活動の拠点は市街地へと移りました。また現在私が福井市の児童館館長をしている関係で、活動地域が広がって福井でも演劇教室を展開しています。児童文化の底辺が確実に拡大していることを、劇団代表として喜ぶと共に大きな手ごたえを実感しているところです。

劇団チャップスが受賞をした記念すべきこのタイミングで今回の原稿依頼を受けたことによって、阪谷を活動の拠点としていた頃をととても懐かしく思い出すことができました。

チャップス設立当時の文化の発信地が阪谷であったことから、これまで地区内の多くの皆様に深いご理解とご支援をいただいたことを改めて心より感謝申し上げます。



岩田 芳子 (不動産)

昨年十二月に栄誉ある「福井県文化奨励賞」を受賞した劇団チャップスは、早くも今年で創立33年目を迎えようとしています。

縁あって阪谷に住むことになった私は、出身地の愛知県では教員として国語科での表現活動や演劇部での創造性や感性を育てる教育に力を注いでいました。だから阪谷で生活をはじめた当初は、文化的ギャップに大きなカルチャーショックを受けたものでした。

その衝撃が「大野の子どもたちにも文化を身近に感じて欲しい」という強い思いに変化して、当時の教育長さんに大野の文化発信についての提案をしたものです。その後、大野市から演劇公演の依頼を受けるようになって、劇団チャップス設立につながりました。

当初チャップスは阪谷公民館に活動の拠点を置いていました。その頃、子育て中であった私は愛育会活動で公民館を訪れる機会が多く、自然な流れで公民館をベースとした活動展開になっていったのです。各地区から阪谷へ人が集まり脚本制作・

山村 福和 (柿ヶ嶋)

社会人になってから早いもので33年が過ぎ、その間にいろんな活動に加わり、なかなかできない体験をすることができました。その中で、いまじっくり取り組んでいることが二つあります。

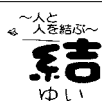
一つは、「越前大野感性はがき展」です。現在、第7回展(テーマ「花」)の入賞者が決まり、3月17日(土)に平蔵で行われる表彰式の準備をしています。心温まる手づくり表彰式です。一度のぞいてみませんか。この活動は、作品募集や展示、作品集の発刊など地道にもう13年続いています。

もう一つは、昨年10月にできた「スターランド特産加工部」です。阪谷でとれたこだわりの農産物を加工し、精力的に販売していく実行集団として、12名のメンバーが「スターランドさかだに」と協力しながら活動しています。

私たちは、これまでそば粉とひまわり油で作った焼き菓子「そばつつえる」や「味みそ」、「まめずきん」などの商品開発や、営業許可の取得、商談会やイベントでの情報発信をしてきました。

活動の中で多くの人に出会い、元気付けられ、教えられてきました。加工部の活動が軌道に乗るには、課題がいっぱいありますが、一つずつ解決していきたいと思っています。

春からまた農作物の作付けが始まります。できるだけ化学肥料や農薬を使わない阪谷地区の農産物を仕入れたいと思っていますので、皆様の御協力をお願いします。



平成24年4月号 No293

LOVEさかだに

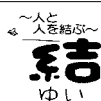
宮下 奈津実(花房)

阪谷で生まれて24年。野菜や水がすごく美味しく、時がゆっくり進んでいるように感じるこの場所が大好きです。今、私はパワーをあげてパワーをもらえる「ヨサコイ」と「MYAのそばつえる」に楽しく時間を費やしています。

高校で介護福祉士、専門学校で調理師の資格を取得して、料理が好きな私は卒業後レストランに就職しました。そのお店で接客はもちろんのこと、お菓子のラッピングや予約受付などいろいろなことを経験させてもらいました。しかし、ある時体調を崩してしまって退職した後、勤務時間の安定する病院で介護士の仕事を始めました。この経験と転機が、今の充実した日々につながりました。

仕事が変わって時間にゆとりができたので、ヨサコイ(福井市のチーム:凛々々楽々)でたくさんの演舞に出て、体を動かし元気な日々を送っています。同時期に特産加工部に出会い、未だお菓子には珍しいそば粉と栄養たっぷりひまわり油を使って「MYAのそばつえる」を考えました。私も阪谷が元気ある明るい村になればと思っていたので、そばつえるで阪谷をPR出来ればと特産加工部に所属しました。これまでの経験を活かして思考錯誤の上、今年2月に商品化ができたときは、夢が現実になり本当に嬉しかったです。

まだまだ阪谷のお役に立てていませんが、これからも素敵な阪谷をたくさんの方に知ってもらえるようにみなさんと一緒に情報発信していきます！



平成24年6月号 No295

より善く生きるということ

松村 秀彦(南六呂師)

5月21日の金環日食は天体が整然と運行されていることを改めて知らせてくれた。私たちは大宇宙の中の自然の中で生きていろいろな喜怒哀楽に翻弄されている存在なのである。いやおうなく昨年のような自然災害にも遭わなければならない。だから今いろんなことに恵まれている人も、なかなか運が開けないと嘆く人も、それほど威張ったりすることもおかしなことだし、嘆くこともまたしかりであると思う。ただ人はいずれ死を迎えることは間違いないことであるし、棺を覆った時にその人の価値が問われるように思える。高い学歴と恵まれた才能、恵まれた仕事を得ている人も、本当に幸せかどうかは怪しいと思う。

古代ギリシャの哲学者の言うように「一番大切なことは、単に生きることではなく、善く生きることである。」ということはあると思う。また「思慮を持ち正義をかざして、その生涯を送らねば、何者も決して幸福にはなれないだろう。」ということも真実であると思う。

今、阪谷を始めいろんな課題がある。5月19日、福井新聞16面にあるように「逆境恐れて改革なし」「未知の世界に挑戦するチャレンジャー精神」が最も必要であるような気がしてならない。



平成24年5月号 No294

時の流れと共に

長谷川 順子(大月)

阪谷に来て、30年以上経ちました。10年ひと昔といいますが、3つも昔を越してしまったのです。来た頃の阪谷は、道路の整備もまだ充分でなく、阪谷橋は、車の行き違いの出来ない細い道でした。松丸から石谷へ伸びるあの急坂の農道も無く、南六呂師から勝山へ抜ける道は、山の中のくねくね道でした。

30年で道は「プラス」へ変化しました。でもそれ以上に「マイナス」へ変化したものは、大きいです。一番思うものは、子どもの声。春になると入園したばかりの子どもが泣き泣き歩いていました。5月になると、その子が友だちとキャッキヤと言いながら歩いて行きます。子どものちょっとした成長を見るのが楽しかったのですが、保育園が無くなり、小学校が無くなり、子どもの声が消えてしまいました。

淋しいですね。でも、それ以上に淋しいのは、その変化に慣れてくる自分です。

この先の10年、20年の変化が「プラス」であり、子どもの声が響く地域であればと思います。



平成24年7月号 No296

守り活動について

民生委員児童委員協議会 中尾 裕子(花房)

少子高齢化の進む我阪谷地区。どうしたら良いのかを考えるのは、難しいことですが、現実(いま)を見ることはできます。

乗り合タクシーの活躍。利用率は市内で一番。食品や日用品は、移動販売車が来てくれるようになりました。これは、高齢の方が暮らし易い様にと、取り組んできた結果です。

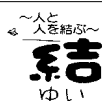
でも「安心」して暮らせているのか?という点、少し違っているのではないのでしょうか。一人暮らし、二人暮らしの高齢者の方々は、言葉に出して言わなくても不安を抱え生活しているのでは?

これは隣近所の協力で解決してあげたい!!と私は思っています。近所の方々が「大丈夫かな」と考えてくださること、アンテナを立てて、見守る気持ちを持ってくださることで、不幸なことを防げるのではないのでしょうか。地域の皆が、気にかけることは、すごい力になると思います。

子ども達のことと同様です。少ない子供たちを、地域で守り育てる。

今こそ地域力で、見守り活動をする時期だと思います。

お隣さんを、気にかけてあげて!!と願っています。



平成24年8月号 №297

PTA活動@廃品回収について

阪谷小学校PTA会長 岸本 淳(森本)

夏といえば、PTA行事である毎年恒例の、廃品回収の時期がやってまいりました。毎年、地域の皆さまには、多大なご協力をいただき、たいへん感謝しています。廃品回収は、大野市内の全ての小学校PTAにおいて、親子で活動できる夏の大きなイベントとして取組んでいます。

近年の活動における状況をご紹介します。親子で汗だくになりながら廃品を集め、何度も学校まで軽トラで運んでいると、ある地区では、PTA構成委員以外の地域の方が、直接運んでいただいていることに気付きました。お話を聞くと、地区の区長さんや婦人会の皆さんに、集荷運搬へ協力をお願いしたところ、快諾が得られたとのことで、ただただ感謝しています。また、ある地区では、近所のお年寄りのお宅へ廃品集荷の際に、「うらは、もう年寄りやで、なかなか持っていかれんので、取りに来てもらて、なんともありがとのお。」と感謝され、この活動を続ける意義を感じることができました。

近年少子高齢化が進む我が阪谷地区では、小学校児童数が減少してきており、小学生が居ない地区も増えてくる可能性もあります。今後の活動では、区長さんを始めとする地域の皆さまに地区委員よりご相談させていただき、ご協力いただきながら、PTA活動を実施する必要があると考えています。相談して協力することで、活動の輪がPTAを超えて阪谷地区の大きな輪に繋がって、地域力が益々発揮できるよう願っています。



平成24年9月号 №298

二学期も頑張りましょう！

山腰 一彦(南六呂師)

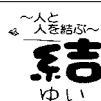
長い夏休みが終わって、二学期が始まりますね。

夏には、たくさんの良い思い出が出来たことでしょう。

今、世間では「いじめ」という悲しい出来事があって、つらい思いをしている方がいるようですが、阪谷では「いじめ」はないと信じています。

自分がされたりしたら嫌な事、されたら嬉しい事など、行動をする前に自分で考えて行動、発言できるような人にみんなになってほしいものです。

二学期も勉強に、運動に、その他いろいろな事にも挑戦して、頑張りましょう。



平成24年10月号 №299

『わたしの ふるさと阪谷は 夜は星がまんかいで おまつりしているみたいで きれいです』

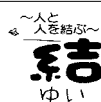
宮崎 真紀(伏石)

これは6月に行われました、大野市青少年健全育成啓発手紙(テーマ「ふるさと」)で次女が受賞した作品です。

実はこの作品を初めて学校で見た時に、私が幼い頃感じていた事を娘も同じように感じていたという事が、大変うれしくなりました。

毎日暑くて慌しかった夏の終わりに、ふと涼もうと外へ出た瞬間に、目の前に大きく輝く北斗七星が・・・

そして北極星を挟んでオリオン座が堂々と輝き、その周りには無数の星が本当におまつりしているようにきれいで癒されました。忙しい毎日ですが、秋の夜長「星のふるさと阪谷」の夜空を見上げて、明日からの活力にしていきたいと思います。



平成24年11月号 №300

『芸術の秋』

山村 倫代(柿ヶ嶋)

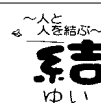
皆さんは、何か習い事をしていますか？

私にとって、秋といえば、芸術の秋です。

現在、十一月九日から始まる県美展に応募する為の作品作りに精を出しています。ここ数年続けている七宝焼での作品です。銅板の上に乗せた釉薬を、高温で焼成して作っていきますが、釉薬が融けた色は何とも言えず魅了され、作成時は時間を忘れるくらい没頭できます。

さらに9月からは、週一回、金津創作の森にて吹きガラスを習い始めました。吹きガラスもまた、ガラスが融けていく様子が何とも言えず綺麗です。まだ習い始めなので、なかなか思ったようには作れません。しかし、自分の作りたいものを作るように続けるのみです。

皆さんも、何か没頭できるものを見つけてみませんか？



平成24年12月号 №302

カイロプラティック& エステTAIYOU

平岩 朋恵(八町)

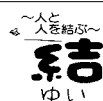
私は以前、マッサージサロンで働いていました。

どれだけ体を揉んでほぐしても毎回肩こりがひどいお客様がたくさんいて、いろいろ調べて行き着いたところが骨格の歪みでした。一生懸命筋肉をほぐしても骨格の歪みはとれません。体を根本的に良くしていけば慢性病、生活習慣病の予防にもなります。

皆さんの体の悩みをカイロプラクティックで解消しませんか？

お気軽に、ご相談ください。

※カイロプラクティックとは、骨格の歪みなどを、手によって矯正する痛みの少ない治療法です



平成25年1月号 No303

阪谷に来て

向川 和美 (南六呂師)

阪谷に嫁いで早くも10年になろうとしています。嫁に来た時は、すごい山の中に来てしまった…どうしようと思いました。が、家族や地域の方々に支えられて、いつしか阪谷に慣れ、住人になってしまいました。

そんな私は今、公民館内にある放課後子ども教室でお世話になっています。人生の先輩自分の父母!?のような方々と一緒に子ども達を見守っています。子ども教室に来る子どもは、どの子も元気が良く笑顔の素敵な子が多いです。公民館に帰って来ると「ただいま」と元気に入ってきます。子ども達の顔を見ると疲れていても頑張ろうと思います。時には、ケンカしたり泣いたり笑ったりといろいろあるけど、子ども達や先輩の先生方と楽しく過ごさせてもらっています。

最初は、すごい山の中に来てしまったと思っていましたが、いつしか阪谷が好きになり、住み着いています。(笑)

住めば都って本当ですね。



平成25年2月号 No304

私の宝物

高地 敦子 (南六呂師)

私の一生の宝物です。私の宝物は二人の子供です。

上の娘は、高校を卒業して、春から社会人になります。学校生活で学んだ事を春からの社会生活に活用し、やさしく思いやりのある社会人になってほしいと思っています。

下の息子は、小学校6年生になります。いろんな事にチャレンジしたり、勉強などもがんばってください。そして優しい助け合える子になってほしいと思っています。

そして頼りない母親ですが、いつも二人の子供に助けられています。

本当にありがとう。



平成25年3月号 No305

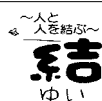
阪谷で生きる

木下 美登里 (松丸)

『○○さんが家の出入り口の雪をかいておくれたの、朝はよから気の毒にと思うたんです。しばらくして△△さんが「雪かきしに来たんやけど、もうきれいになってるで帰るわ。」と言うておかれて、わたし うれしゅうて、うれしゅうて、みんなに助けてもらって 生きてるんです。』と、近所の一人暮らしのおばあちゃんが話す。へえ、○○さんも△△さんもすごいなあ。話しているおばあちゃんもきらきらしている。

その昔、母がしていたことを思い出した。朝鮮(韓国)の人が鉄屑を求めたり、キルティングされた生地で布団や袖なしを作り、売りに来ていた。来ると必ず鉄屑を出したり、布団や袖なしを買っていた。屋どきになると、お茶や味噌汁をふるまったりもしていた。その布団は今も残っている。

火曜日の夜、年が若いもなくバドミントンに興ずる。一昨年とその前の年はSさん、昨年はTさん、二人の若者に甘える。体育館を借り、鍵を開けネットを張ってくれる。週一回とはいえ、風の強い日も、雪のひどい日も雨の多い日もある。二人の笑顔に支えられ、できる限り続けようと思っている。



平成25年4月号 No306

阪谷ふわわ女性の会の会長になって

山本 早苗 (松丸)

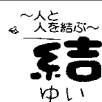
光陰矢の如しというのでしょうか、私が阪谷に嫁いできてすでに30年以上もたってしまいました。本当に月日がたつのは早いものです。

そして私はこの度25年度の阪谷ふわわ女性の会の会長をさせていただくことになりました。県外から嫁に来た私は、当時勤めてもいませんでしたので、阪谷で知っているのは家族と松丸の方ぐらいで、やはり今から思うと寂しかっただろうと。

それから子どもが生まれて愛育会やふわわ女性の会(当時は婦人会)に入れていただきました。知り合いも増え、友達もできていき、役員会があるとなかば嬉しかったことを覚えています。

そんなふわわ女性の会が会員の減少に心を痛めています。東北大震災の後、人と人との絆の大切さが声高に叫ばれています。阪谷には「いざというとき」が来ないかもしれませんが、いざというとき助け合える集落・地区でありたいと思います。もちろんふわわ女性の会を負担に思う理由を明らかにして改善して、昔から続いてきたふわわ女性の会をなくさず活動を盛り上げていきたいと考えています。また役員の方には、大変だったけれど役員をしてよかったと思ってもらえるよう、楽しみながら活動に参加してほしいと思います。

阪谷の伝統を若い世代に伝えていくことが大事なことで同じように、ふわわ女性の会が阪谷地区の女性をつなぐ大事な社会資本だということを、女性のみならず、男性の方にも分かっていたきたいと思います。阪谷の子どもを応援してください。に、ふわわ女性の会をどうぞ応援してください。



平成24年5月号 No307

社会福祉について

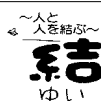
竹林 正彦 (花房)

私が、阪谷地区社会福祉協議会の会長を拝命してから9年が経過しました。しかし、今まで全く社会福祉について関係した事がなく、最初は戸惑いましたが、経験を積んで行くうちに、これからの時代は社会福祉の分野は重要であることが解ってきました。人間は必ず老います。そして最後の時を迎えますが、人間誰しも健康で幸せな老後を過ごしたいものです。

現在は、介護保険制度を始めとして、行政機関も色々な福祉事業の支援をしています。それらをよく理解して利用しなくては支援が無意味になります。

例えば、各地区で実施されているお元気サロンにしても、もっと多数の方が参加してもらえば嬉しいです。特にどのサロンも男性の参加が少ないのが残念です。サロンの目的は、将来寝たきりや引きこもりにならないで、元気に老後を過ごすためのものですから、今まであまり参加していない方も、これからどんどん参加して頂くと思います。

これから日本も人口が減少していきますし、団塊の世代の人々も65歳になって来ますし、ますます高齢化率は上がっていくでしょう。私達は今後健康で幸せな老後を過ごす為に、人任せではなく自分の健康は自分で守る意識を持って過ごしていくべきです。私も65歳になり胆に命じたいと思います。



平成25年6月号 №308

「阪谷のいいところ見つけ隊」この指とまれ

ゆい

加藤 泰子 (石谷)

6回目を迎えて今年も「阪谷こだわり野菜を食するつどい」が七月七日に開催されます。ある区長さんの一言から始まったこのつどい、作り手も六年経つと六歳年取り、少々オーバーヒート気味ですが、今年も会議を重ね準備を進めています。

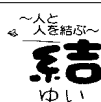
寒暖の差、山からの源流水、経ヶ岳から吹き降ろす山風等、好条件の揃った阪谷地区は、こだわりの美味しい農産物を作るのに適しているのです。

「ところで皆さん、日本の輸入農産物の現状を知っていますか？」

今年の2月、横浜港に視察に行き、そこで何年も港で炎天下であろうが風雨であろうが野ざらし状態のままのポリ容器が無造作に野積みされているのを見て来ました。中を見てビックリ！赤や黄色のカビ(?)のついた塩蔵輸入野菜が再び多くの薬品を使って、立派な製品に仕上げられ消費者の元に届くのだと聞いて二度びっくり！ショックでした。塩蔵野菜だけでなく、肉、果物、米麦も港で燻蒸している現状を聞き驚愕させられ、不安と疑問と不信と複雑な思いが・・・。「食」とは「人」が「良く」なる事、安全で新鮮で栄養がある事、安くて(・・・)美味しければいいという事ではないとの一言で救われ、改めて「食の安全、安心」の大切さを痛感しました。

それでも私達はまだいいかも。大野に住んでいて、こだわり(・・・)の美味しい農産物のとれる阪谷に住んでいて。まだ「食するつどい」にお越しただいてない区民の皆さん、是非食べに来て下さい。多少不便なところはあるけれどやっぱり阪谷はいいと思えるでしょう。生活の基本は「食」ですから。一緒にもっといいところを見つかけましょう。住んでいてよかったと思える阪谷に。

『この指と～まれ』



平成25年7月号 №309

食育

ゆい

石塚 憲治 (萩ヶ野)

58歳で勤務先を早期定年退職してはや5年が過ぎてしまい、この間晴耕雨読の日々を過ごしています。

阪谷地区の団体活動にも加わりながら、雨読の日々は8年前より取り組んでいる食育に関する活動を広め、2年前には活動仲間の研究家を中心にNPO法人フードヘルス石塚左玄塾を設立し、その主力メンバーとして食育活動を薦め、食育の祖と言われる石塚左玄先生の食の教えを広めることと、人物を顕彰していく活動を行っています。

大野市の2月開催の食守フェスタへの参加や、今年初めて阪谷小学校での食育教育月間での給食に石塚左玄先生の功績講演と給食提供し、児童たちに食の大切さを知ってもらったことや、7月スターランドでの「こだわり野菜を食するつどい」に、石塚左玄塾の会員が左玄先生の提案した食を提供し、活動参加することで地域の広がりを薦め食育によってその大切さを知っていただく活動を行っているところです。今年も、このイベントに左玄先生が提唱した内容の料理を作りますので是非の参加をお待ちしています。

さてそれでは、石塚左玄先生にふれます。今から117年以上も前に左玄は世の中の根本は食であり、人の心身は食によって

作られると食と食育の重要性を説きました。食育の言葉を明治29年に初めて本に書いたことから食育の祖と呼ばれ食育基本法の生みの親とも言われています。

『子供にとって食育が一番大切な家庭教育である』といったのです。生誕地は今から162年前に福井市であるが、その出自は阪谷萩ヶ野であります。ここには先祖の墓がひっそり立っています。

このような縁で活動を行っているわけであります。

左玄の提唱した食育は次の通りです。できることから始めてはいかがでしょうか。

①家庭での食育の重要性 食育は親が家庭で行うもの。

②命は食にあるという食養道の考え

食が人の健康を左右する。

③人間は穀物動物である

人は歯やあごの形状から穀物食があう。

④一物全体主義

食物は丸ごとで食するがよい。米は玄米で食す。

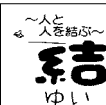
⑤地産地消・身土不二

地域の伝統料理や土地で取れたものを食す。

⑥バランス食

子供たちに朝食は抜くことなく、しっかりバランスよく、地域で取れた旬のもので、穀物を中心に、丸ごとの食材(米なら玄米)でしっかり噛んで食べることが左玄の食育の教えです。

いきなり玄米が食べられなければ、7分つき5分つきからお試ください。



平成25年8月号 №310

一万本のひまわりありがとう

ゆい

後川 ちづ子 (大月)

先日、テレビや新聞などで、「大野市蓑道のスターランドさかだにで、ひまわり一万本が、照りつける日差しを浴び大輪を咲かせている。」と報道されました。すると、もうその日に、市内外からの観光客や家族連れがどっと押し寄せて来て、写真に収めたり、周辺を散策したりしていました。

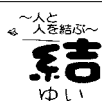
スターランドさかだにの従業員の方や特産加工部の方が来場者のおもてなしに、手作りのしそジュースを無料で提供しました。私も特産加工部の一員として手伝いに加わりました。その間にとっても嬉しいことがありました。ひとつは、ある県外のご夫婦が「明日は百名山の荒島岳に登るんですが、朝、ひまわりのことをテレビで見たので早速見に来たのですが、あまりの美しさに感動しました。」と言ってくださった事です。

もうひとつは、ひまわり畑で白いウエディングドレスとタキシード姿の花嫁さんと花婿さんの写真撮影をしていた事です。みんなビックリ！花嫁さんと花婿さんに駆け寄り「おめでとうございます。式場から来られたのですか。」と聞いたところ、テレビでひまわりを見て前撮りに来られたそうです。

とてもパッパな気持ちになり、スターランドさかだににも幸せが運ばれてきたような気持ちになりました。

テレビや新聞の力はすごいです。みんな見ているんだなと実感しました。一万本のひまわりありがとう！さかだにを元気にしてくれてありがとう！

来年もきれいに咲いてね！



平成25年9月号 No311

僕と農業

土橋 好孝(金山)

農業(兼業農家)の入り口は、20代後半(昭和53年頃)に父親の死亡により都会から地元に戻って来たことです。

就職活動を開始しましたが、なかなか見つからず専修学校に一年間通学しました。しかし、学んだことを活かせる仕事には就けず工員として働きました。そして、結婚と同時に阪谷(金山)を離れました。

初めの頃はただ機械に乗り農作業をしている感覚でしたが、定年を迎え「生きがい」として考えるようになりました。農業は3K産業(キツイ・キタナイ・キケン)で利益が少ないために子どもに引継ぎされず離れていきます。先人が開拓して農地を生み出し、長い間受け継がれてきましたが、耕地整理を境にして農業者の高齢化が進み、農業から離れていく人が増加し過疎化に拍車を掛けました。それと同時に、耕作放棄地が増加し荒地化となり古里が消えていきました。年齢が増すごとに若き頃の田園風景が消えていくのがたまらなく感じます。現在の風景が消えるのが少しでも遅くなることを望みます。

現在農作業(米・ねぎ栽培)をするために毎日大野市街地から通っています。阪谷に籍はありませんが、道で会ったらお声掛けください。



平成25年10月号 No312

スターランドさかだに

スターランドさかだに 支配人 村中 甚孝

平素はスターランドさかだに事業にご協力とご理解を賜り厚くお礼申し上げます。24年度よりスターランドさかだにの支配人を受け早1年と6ヶ月になりますが、体験施設の運営の難しさを思い知らされています。

しかし、運営を預かった以上、一生懸命がんばりますので、これからもご指導くださいますようお願い申し上げます。



平成25年11月号 No313

ふるさと阪谷をよくする会

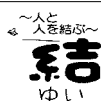
総務部長 幾山 秀一(橋爪)

阪谷の基幹産業である農業振興策として、有機の里の看板を掲げ、安全安心な美味しい農産物を育てる里づくりに取り組んでいます。

地域づくり交付金で、これまでに、農産物加工品の開発や、陶芸の里づくり、阪谷の魅力体験バスツアーなど行っています。その他スターランドを拠点に、阪谷夏まつり、こだわり野菜を食するつどい、阪谷文化祭・収穫祭、冬はドンド焼きなど地区活性化の為に取り組んでいます。

今年から、石塚左玄にゆかりのある事から、地域づくり交付金で石塚左玄の食育(地産地消・身土不二)を学び、啓蒙活動に取り組めます。

地区の皆様には阪谷の発展活性化の取組みに、ご協力、ご支援を頂いていますが、心身豊かに住みやすい魅力ある阪谷になりますよう、これからも地域のイベントや活動に、ご理解ご協力頂き、そして参加して下さいますようよろしくお願いします。



平成25年12月号 No314

愛 郷

石塚 昭夫(萩ヶ野)

日頃の生活の中で、ふっとふるさと阪谷地区を振り返ってみると、昭和四十年代の土地改良事業によって、以前よりは田畑の地形は変わっても、気候、風土は変わっていないと思う。

阪谷地区は名のごとく坂と谷が多い。高台から大野市街を見渡し、目に映る風光明媚な景色、下方から風のささやきを聞く時ふるさと阪谷の良さが分かる。

さて、四季折々の中で農作業を営みながら、この環境の恵みを活かせる方法がないものか・・・と考えた時、阪谷地区の入り口に立っている「有機の里阪谷」「食育の祖 石塚左玄ゆかりの地」この2枚の看板に負けないように、寒暖の差を活かしてできるおいしい農産物を利用した食生活・食文化が育む地区にしたい。

そのために、一丸となって知恵を出し合い、実践できるよう願っている。



平成26年1月号 No315

元気なふるさとづくりを

区長会会長 中出 良一

私たちの阪谷が

- ㊤ さわやかなあいさつのある地域
- ㊦ かしく知恵を出し合う地域
- ㊧ 大地の恵みに感謝する地域
- ㊨ にこやかで健やかな地域

であってほしいと願っています。

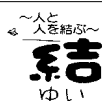
さて、少子高齢化という現実が、すっかり居座ってしまったかに思える阪谷ですが、私は、元気なお年寄りがいて、培った知恵を生かして下さることに着目すべきだと思います。

そんな折、能登半島にひっそりと息づく中山間地で、農家民宿を営む『春蘭の里』という限界集落があることを知りました。そこには、都会の若い女性や海外の修学旅行の子どもたちがどんどん訪れているそうです。

囲炉裏を囲みながら山の幸に舌鼓を打ち、お年寄りの昔語りにより添うという素朴で静かな時間こそが、最大の売りだとのこと。

阪谷の高齢者の方々にも素敵な知恵があり、それが活かされる日を待ち望んでいると思うのです。

そんな舞台づくりを皆でしようではありませんか。



平成26年2月号 No316

私の老後

南川 ふじえ(養道)

昨年三月退職して以来10ヶ月、これといった趣味も特技もなく、無為に過ごし続けている。時間に追われることもなく家事に従事しているが、家の中が美しく片付いた訳でもない。

幸い(?)なことに時々孫のお守りをするすることがあり、車にチャイルドシートを着けた。懐いてくれるので可愛いが、日がな一日遊び相手をしているとさすがに疲れる。

孫は日々成長し新しいことをどんどん覚えていくが、私は反対に忘れる一方で、簡単な漢字や言葉、名前、物事も出て来ない。老化の一途をたどっている。

「老後」とは年老いてのち、年をとってのち(広辞苑第六版)、年をとってから後(角川類語辞典)とある。

自分ではまだ老人と思いたくないし、言われるのもイヤだが、いつから老後なのだろう。誰かからまだ必要とされる存在でいられるよう、ゆるんだタガをしめて何か楽しみを見つけ、ハリのある老後を送りたい。我が家で20年余家族を癒し続けてくれる老猫のように・・・



平成26年3月号 No317

あしあと

村上 元希(養道)

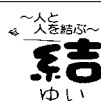
体育協会の理事長をさせていただいて5年、歴代の方々の功績を引き継ぎました。お話をいただいた時には「自分に出来るのだろうか。うまく盛り上げて行けるのか。」といった不安と葛藤したことを覚えています。しかし、会長、地区理事の皆さん、事務局の方々のお力添えがあり、今まで何とかやってきました。そして、何より地区の皆さんのご理解とご協力があったこそだと思います。

そのようななか、球技大会や会議などを通じて、各地区の若い人からご年配の方々と知り合い、ふれあい、お話をさせていただく機会が増え、いろんなことを学び教わりました。このことは私にとって大きな財産となっています。このような経験を与えていただいたことに感謝しています。

これからも、多くの皆さんが体協の行事を通じて、～人と人を結ぶ～“結”のような大きな輪が広がるようになればと願っています。

まだまだ力不足の私です。皆さんのお力をいただき、少しずつかもしれませんが、体育協会という中に、足跡を残せて行けたらと思います。

つぎの世代に襷(たすき)が繋がるように。



平成26年4月号 No318

6年目にして思うこと

多田 佐智子(森本)

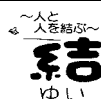
生まれも育ちも富山県の私が、大野にやって来てもう6年目になりました。両親や友人の住む地元を離れた時の寂しい思いや、新しい土地になかなか馴染めなかった辛い気持ちは今でも忘れることができません。

しかし、私は阪谷に縁があるのか、本当にありがたいことに、阪谷のいろんな場所で仕事をすることができました。

スターランドさかだにをはじめ、阪谷公民館での子どもを見守る安全管理員、そして今は週に2日ほど阪谷郵便局での勤務。

阪谷の人たちと触れ合う機会が多くなるにつれ、いつの間にか、ずっと寂しい寂しいと思っていた気持ちが薄れ、富山のことを考える時間が減ってきているな・・・という事に最近気が付きました。

いつも親切にさせていただいている皆さんに、心よりお礼申し上げます。また、今後ともよろしく願いいたします。よろしければ、阪谷郵便局にもお立ち寄りください。



平成26年5月号 No319

ふれあい

山本 喜美代(松丸)

ちょうど9年前、桜が散りチューリップなどの春花がきれいに咲いているこの時期に私は阪谷に嫁ぎました。嫁ぎ先の母が育てていた花壇の“てっせん”がきれいだったのをよく覚えています。元々大野人なので友達はいましたし、寂しさなどはありませんでしたが、阪谷に遊びに来たのは数回。阪谷出身の友達も町の方にお嫁に行ったり県外にでたり、結局同世代の人がいるのかいないのか?という状態でした。

道もよくわからず、子供ができてからの散歩は同じところをぐるぐるまわってばかりでした。けれど、そんななか散歩中の私に、地区の人はとても気さくに声をかけてくれました。『今日は散歩日よりやの』と声をかけていただいただけで気持ちが温くなりました。次第にどこのおばちゃんか誰なのかわかるようになってからは、たくさんいろんなことを聞きいろんなことを教えていただきました。料理のこと、子供の成長のこと、畑のこと、花のことなどなど…まるでお母さんがたくさんいるかのようです。

そんな地区の皆さんには本当に感謝しています。これからもお願いします!

また、私は今の仕事で地区の方々と、ふれあうことがたくさんあります。『来るの待ってたよ』って言われることほど嬉しいことはありません!『お昼御飯食べてきねん』『これ今畑からとったばかりの新鮮な野菜や!もって帰りねん』『来てくれるのが楽しみや』など本当に嬉しい言葉をたくさんかけていただいています。今このように書いてると私は本当に幸せな人間だなあと実感します!みんなに助けられてここ阪谷で生きているんだなと感じました。

私の子どもたちにも皆に支えられて生きていること、阪谷の良さを教えていきたいと思っています。

農作業をしておりましたら「桜を見に来ました。」と子どもを連れて若い女性二人が、声をかけてきました。

また、先に来られたご夫婦が、「川に沿ってゆるやかなカーブできれい。」「上から見るとピンクの帯のようです。」と話していました。。

この桜は、堂嶋区の将来に何かを残したいとの思いで、8年前に中山間事業で区民が苗を植えました。木に支柱をし、毎年七月の社会奉仕で草刈り等をして育ててきました。

毎年1月末頃に、桜の蕾をつしばむ野鳥「ウソ」の食べたカスが雪の上に落ちているのですが、今年はほとんど見られませんでした。「ウソの被害にあわなかったのも、今年は桜が素晴らしく咲くだろう。」と私なりに推測しておりました。この道は私の散歩コースになっております。向山のコブシの花も満開になり、いつも見慣れている棚田が輝いているように思えました。4月12日の開花から一週間以上も楽しませてもらい心に栄養を蓄えられました。

桜咲くわがふる里は花の島

黒田ちづ子さんは、今年度「あすの福井県を創る運動功労者 会長表彰」を受けられました。



隣のFちゃんから誘われていた。まだ老人会になんて・・・と思っていたが、75歳になって福寿会に入った。

それから5年、はじめて「ほっとサロン」へ行く気になった。隣同士誘い合わせて、バスを待っている。「初心者ですので、よろしく」と手を上げる。「おおっ、来てくれたかのう」女、男、それぞれ年を重ねて、穏やかな顔で声をかけてくれる。心がなごみ、結ばれていく。

昭和23年、新制中学を卒業すると16歳、すぐ土方仕事に出た。進学・高校へ行くなどという高嶺の花を遠くにながめ、たいがいの同級生は働き口をさがして仕事についた。それを見送り、見守る親たちは、敗戦の悔しさの思いも遠のいてゆき、戦争のない安堵のなかで腰をかがめて田畑で働き続けた。

母は29歳で逝った。夫は戦争にとられ、町からとついだ嫁に、素足で霜の降りた苗代での作業は過酷だった。

苗取り、田植え、稲刈り・・・など機械力のない時代、ただ腕力だのみの重労働で疲れ果て、病が体をむしばんでゆく。つらい体験は、まわりの皆にある。だが、今日は楽しいつどい。戦争のない、こんないい老後が待っていたなんて！笑顔の面々を乗せてバスは和泉の憩いの会場へ。

「体組成チェックで健康管理を」まずは達者で長生きというわけでタニタの測定機にのる。脂肪量、筋肉量、骨密度などなど。「脚点」って何？今のあなたの筋力の強さです。「体内年齢」に関心が集まる。57歳！うそっ？20余りもさばをよんでもらって、でもうれしそう。

しゃべって、食べて、温泉へと気楽に遊んで千円也はお得。自販機もあるよ。

元気でいたい方は福寿会へどうぞ。

前回の原稿依頼から2年半が過ぎましたが、阪谷公民館を拠点として活動を開始した《劇団チャップス》は9月に創立35周年記念公演を予定しているので、今回も劇団代表としてその続編をお届け致します。

さて、チャップスでは親劇団として11年前に《児童劇団チャップス・ジュニア》の活動を始めた頃から、文化の底辺拡大に加えて演劇教育としての位置づけを重視するようになりました。現在、年長児から小学生・中学生・高校生・大学生がジュニアの団員として、大人チャップスと共に公演日に向けて夏休みもパワー全開で頑張っています。

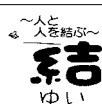
表現力やコミュニケーション力が養われる練習風景で、ジュニアたちが見せる底力には目を見張るものがあります。脚本からテーマ曲・衣装・小道具等に至るまで手作りで仕上げていくので、キャスト参加のみならず裏方のスタッフで参加をするジュニアもいます。いずれも、一つの作品を作り上げていく過程や本番時に受ける達成感、生きる力や地域力をも生み出しあらゆる活動の場へとつながっていくのです。

また、劇練習の中で教育カウンセリングのスキルを入れていくこともあるで、日を追うごとにオーディションの頃には見られなかった自信と安定感が得られる様になってきます。そうした成果が福井市においても必要とされ、指導教室等で発達に合わせた演劇教育指導の実践もしています。

まずは、9月7日(日)午後5時30分開演の劇団チャップス公演【ピーターパンとなかまたち】を大野市文化会館へ見に来ていただき、演劇教育の成果を実感してください。阪谷の皆様にも、多数チャップスに親子参加をしていただきたいと思います。家族で遊びに出かけるだけでは味わえない、大きな達成感とお子さんの育ちが期待できますよ。

劇団チャップス公演のチラシやチケットは、8月中旬から文化会館・図書館・公民館・児童館に置かせていただきます。どうか、よろしくお願い致します。





平成26年9月号 No.323

「ピザ窯を作ろう！」

山村 福和 (柿ヶ嶋)

皆さんこんにちは。スターランド特産加工部です。

私たちは、阪谷地区で採れた農産物などを加工・販売する六次産業化を中心に地域の発展を目指して活動しています。

今は「すこ」や「そばっつえる」、「まめずきん」などの焼き菓子のほか、阪谷地区で栽培した小麦とひまわり油を使ったクッキーの商品開発に取り組んでいます。

まだまだ、生産量は少なく、経営も安定しませんが、少しずつ前へ進んでいきたいと思っています。

さて、今年度は地域内異世代交流事業(フラワーコミュニティ事業)の補助を受けて交流事業を行うとともに、スターランドさかだにに石窯を設置することになりました。

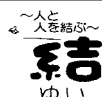
石窯で阪谷の新鮮な野菜や山菜、小麦、ひまわり油などを焼いてピザや蒸し野菜などを楽しむことができるようになり、体験の幅が広がるでしょう。きっと阪谷を訪れた人たちが喜んでくれると思います。

私たちは、地域の住民が笑いながら知恵と力を出し合い、ひとつずつ耐火レンガを積んで、私たちの石窯を作りたいなと思っています。一緒にやろうという方は御連絡ください。

ところで、ひまわりの花の絵や写真を募集したところ、たくさん作品が集まりました。ありがとうございました。これらの作品は今後のイベントなどで展示します。

また、12月ごろを予定している交流会には、収穫した野菜と完成した石窯でパーティーをしたいなと思っています。

その日が楽しい日になりますように・・・！



平成26年10月号 No.324

農家民宿「このは」を始めました

矢尾 政士 (南六呂師)

六呂師に移住して、六呂師住民の皆様や多くの方と知り合うことができました。友人達に助けられて、楽しく農作業や自然ガイドなどをしながら、何とか10年目を迎えることができました。皆様には大変感謝しています。

今年の7月頃より、農家民宿「このは」を開業しました。体験プランをご紹介しますと、①歩いて森を楽しもう！②美しい夜空を眺めよう！③ピザづくりに挑戦しよう！④自然とのふれあいをしよう！（山菜採り、きのこ栽培、農林業体験、六呂師高原の稀少植物の再生）です。

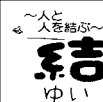
体験プランの中で一番の人気はピザ体験で、全体の九割を占めています。ピザ生地やトマトソース、バジルソース、ベーコンはすべて手作りしており、友人お手製の石釜で焼いています。お客様に好きな具をトッピングしていただくのですが、お子さんにはもちろん、大人の方にもご好評いただいています。窯で焼く作業は、家主がしています。ピザ体験が無ければ、閑古鳥が鳴いて私達も泣いていたことでしょう。

いつも笑いのある生活を心掛けていますが、お客様と楽しくお話ができて楽しい時間を持てたらいいなと思っています。

農家民宿とは外れるかもしれませんが、私の一番遣りたいことは六呂師高原に元々あった稀少植物の再生です。オミナエシ、キキョウ、オキナグサ、マツムシソウは発芽率も良く増やすことが出来るのですが、レンゲツツジの挿し木は難しくなかなか思うように根付きません。

どなたか、挿し木で増やす方法やまた他のやり方を教えてくださいませんか？吉報をお待ちしています。

今後とも、よろしくお願い致します。



平成26年11月号 No.325

六呂師高原特産物会

《代 表》岩本 清

《加工班》中村和子 細道きよみ 山腰清美

特産部会を立ち上げて亡くなられた松村秀彦先生には、特産物の野菜のことや行政との話し合い、マスコミの対応など、御尽力いただきました。改めて先生の偉大さをつくづく噛みしめるこの頃です。

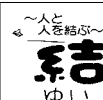
先生にはとても及びませんが、私達は毎月第一第三日曜日と祝日に元六呂師スキー場の所にある六呂師高原直売場にて、笹すし、おやき、山菜おこわなどを販売しています。その日に収穫した六呂師産の新鮮な野菜も並びます。

今日の日曜日には、笹すしやおやきなどをどれだけ作ろうか、ホワイトコーンや嵐かぶらの種まきや間引きは何時にしようか、かきもちはどうな風に・・・などと話し合いながら、毎日の仕事に励んでいます。まだまだ力不足ですが、三人で力を合わせて頑張っています。

阪谷地区周辺と六呂師高原とは、自然状況は差程変わりませんが、また違った心のお宝を見つけることができるかもしれません。是非、家族連れで遊びに来てください。

そして、日曜市のおばさんを見かけられたら声をかけてくださると、幸いです。今後ともご助言をお願い致します。

その日が楽しい日になりますように・・・！



平成26年12月号 No.326

大野消防団「結の故郷女性分団」として

稲津 直美 (南六呂師)

平成26年4月に、女性消防団が総勢100名の団員となり、大野消防団「結の故郷女性分団」が誕生したことは、今年度大野市の大きなニュースの1つであろうと思います。

私は知り合いの方から、女性消防団員を募集しているから応募してみないかと誘われ、軽い気持ちで応募したところ、採用が決定し、「私で大丈夫なのだろうか？」と不安を抱えながら、結成式や高齢者宅への防火訪問、研修会消防団60周年記念大会など参加してきました。

研修会では、消防団員としての心構え、態度などを教えていただき、身の引き締まる思いでした。高齢者の自宅訪問の時には、一人暮らしをしているお年寄りが、私たちに毎日の暮らしの中での不安なことなどを話してくださり、少しでも話し相手になれるよう心がけました。

幼年消防のパレード保育園、幼稚園への紙芝居の読み聞かせ、防犯訓練のお手伝いなど、女性消防団員としての活動の機会が度々あります。参加できるときには、女性消防団員としては恥ずかしくないよう頑張っていきたいと思っています。

さくらんぼ愛育会は、小学校入学前の親子の交流の場として活動しています。

一年間を通して様々な行事を企画したり、阪谷地区の各種団体の一員として地区の行事に参加させていただきました。春は遠足、夏は夏まつり、秋は体育大会、防災訓練への協力、冬はクリスマス会、女性のつどいに参加し交流を楽しんでいます。

先日のクリスマス会では地元の林先生を招きツリーづくりやロールサンドイッチ作りを行いました。子ども以上に親が張り切りとても素敵な作品が出来上がりました。

愛育会に参加し、良かったことは子どもたちが地元の保育園に通っていないため、小学校に入学してからどうなるのかと不安に思う気持ちが親子共にありましたが、顔見知りができ色々な話を話し、相談できたことです。

年々、子どもの人数も少なくなり、愛育会の会員数も減ってきてはいますが、これからも地区の皆様に見守っていただきながら元気一杯に活動を行っていききたいと思います。

また、さくらんぼ愛育会に入っていっていらっしゃるご家庭がありましたら、ぜひご参加ください。

初めて子どもをベビーカーに乗せてお散歩に出かけた日は、まだ慣れていないこともあり、とても緊張したのを覚えています。

その子が保育園に入園すると、愛育会に誘われました。その頃は近所に同じ年頃の子どもがいるのは知っていましたが、交流はあまりありませんでした。愛育会の活動を通し、私自身にも友達ができ、子どもだけでなく私にも家以外の居場所ができたように感じました。

しかし、小学校に入学すると困ったことがありました。春休みや夏休みに子供が1人で家で過ごさなければならなくなったのです。

そんな時に子育てクラブのことを知りました。料金はかかりましたが、見守りをしてくださっている先生方は地域の方ばかりなので、安心して預けることができました。

また、子育てクラブの活動はクッキングや1泊のキャンプ等、子ども同士が協力して体験することが多く、家庭ではなかなかできないことなので楽しく参加しています。今年も3月に6年生のお別れ会を南六呂師の青少年自然の家に宿泊して行う予定をしているのですが、今から子ども達は何をするのかとても楽しみにしています。

このような活動に参加することを通して、私もいろんなことにチャレンジする楽しさを知りました。これからも子どもと一緒に成長できればと思います。

また、私がこの阪谷で生活し、子育てをしていけるのは、係わってくださっている皆様、見守ってくださっている皆様のおかげです。

子育ての大変さを感じたときには、私を支えてくれる優しさも感じることができます。今後は、支えられるだけでなく、支えていけるよう頑張っていきたいです。

阪谷で子育てをしていると色々な行事に参加する事があります。

先日、阪谷雪まつりで子どもが、ゴーグルにヘルメットを付けて、雪合戦大会に出場しました。阪谷チーム同士で何回も試合をしていく中で、子どもたちは協力し合い、相手チームの旗を取り合う大接戦になりました。子どもの頑張る姿を見る事はとても楽しかったです。

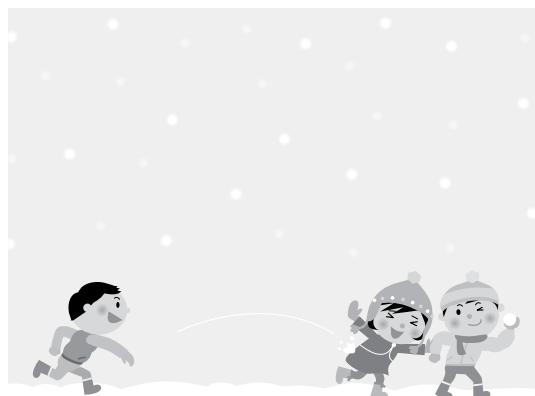
また、学校開放日に見学に行くと、業間の時間に「一緒にしよう」と私も誘われ、王様ジャンケンに参加することがあり、阪谷ならではの温かさと阪谷っ子の仲の良さを感じます。

少子化が進む中、近所に友達が少なく遊びに行くのも送り迎えが必要です。学校が終わると、放課後教室へ行き宿題をして友達と遊んだり自然教室等のクラブ活動に参加しています。

その活動の一つとして、パソコン教室に参加しました。パソコンとは太鼓の仲間です。まずは親子でパソコンづくりからスタートしました。自分の名前から二文字好きな字を選び、段ボールの紙で和紙に字を書きました。その和紙をパソコンに貼ったのですが、とても素敵なデザインになりました。作ったパソコンを使い、子供たちは練習をして敬老会で発表する事が出来ました。親子で参加することが出来、とても良い思い出になりました。

このような活動を通し、地域の子供たちと交流が出来、さらに私自身も安心して仕事に専念する事が出来て、とても助かり有難く思っています。子どもが明るく元気に過ごさせて頂けるのも周りの方々のおかげと感謝しています。

これからも次代を担う子供たちに阪谷の良さを伝え、子供たちを見守っていただきたいと思います。



次世代に伝えていきたい
～変わらないものがここにある～

新保 裕子 (柿ヶ嶋)

私はここ阪谷で生まれ育ちました。子供の頃から何も変わっていない風景。

子供の頃はそれが嫌で大きくなったら都会に出たいと思っていました。希望通り大学は大阪へ。しかし、長期休暇を利用して戻ってくるとなぜかホッとしました。

そして大人になりいつしか子供を育てるならここでという思いが湧きました。

阪谷の風景は季節に応じて様変わりし、四季折々を目で、体で、感じることができます。また、食べ物も季節のものを旬で戴くことができます。それらは今も昔も何も変わっていません。

少しずつ春めいてきている今日この頃。先日子供たちがふきのとうを取りに行ってきました。「ふきのとう取ってきたよ。天ぷらにして。」春になると毎年聞こえてくる会話です。

夏には夏野菜、秋には栗を手にと同じような会話をしています。季節のものが分かっているからこそできる会話だと思えます。最近の子供たちは、スーパーで季節を問わず何でも購入できるため、旬のものが分からないと言われています。しかし阪谷の子供たちは違います。学校や家庭において旬の物をおいしく食べられる調理方法で食べています。

時には子育てクラブや放課後子ども教室において、子供たちが育てた野菜を収穫し、それらを使って料理教室を行ってくれています。それらはこのような環境だからこそできる食育なのではないかと思えます。

また、昔からよく知る顔なじみの地域の方々からの温かい声掛けや心遣い。これもとても有難いことだと思えます。隣が誰でもをする人かも分からないというご時世ですが、ここでは違います。どこの誰かを知り何かあれば声を掛け気遣ってくれます。それも私が子供の頃から何も変わってはいません。私も含め声を掛けてくれている方々も年老い風貌は変わっていますが、出せば昔と変わらず「あら、裕子ちゃん。子供大きくなったね。何年生？」このような感じで子供たちのことまで気にかけてくれ声を掛けてくれます。

時には子供たちに「これよかったらどうぞ」とお裾分けをしてくれます。また危ないことをしていれば「裕子ちゃん、子供さんあそこにいるけど大丈夫？一応おばちゃんここは危ないよって言うておいだけどもまた見てあげて」と子供たちに直接注意をしてくださり私にも伝えに来てくださいます。これらも昔から変わらない地域の優しさであり大事な繋がりであると思えます。

“変わらないもの”それが私たちにとっての故郷なのではないかと思えます。ここで生活をする私たちはこの故郷を守りながら次世代に故郷の良さを伝えていかなければいけないのだと思います。



子育てをして思うこと

加藤 美紀 (石谷)

阪谷で子育てして思うことは、「阪谷だからできることがたくさんあって、とても恵まれているな」ということです。

阪谷小には学校田があり、毎年、ドローリンピック・田植え・稲刈りが行われています。この学校田は、耕うんや水の管理、肥料まきなど、見えないところでたくさんの方々に支えられています。そのおかげで、子どもたちがいろいろなことを学ぶことができます。泥まみれで行うドローリンピックは笑顔があふれていますし、友達と一緒に田植え・稲刈りは本当に楽しそうです。

また、阪谷には、小学生の全学年が利用できる放課後子ども教室があり、阪谷の方が安全管理員として子どもたちを見守ってくださっています。バドミントン教室や自然教室、百人一首教室など、他の地区の放課後教室ではできないことも行ってくださっています。

子どもたちがこのような活動に参加できるのも、地域の方々の協力と支えがあるからであり、とてもありがたく思っています。これからも、この自然豊かな環境と地域の方々に感謝をしながら、阪谷の子どもたちを見守っていききたいと思えます。

自然とともに

前田 真弓 (大月)

阪谷に住み始めて5年が経ちました。近所の方も温かく受け入れて下さり、おかげさまで二人の子供も伸び伸びと成長しています。人とのつながりも徐々に増え、この「結」を書かせて頂けるようになりました。これも私に「結」ができたからであり、ありがたく、嬉しく思います。

毎日、慌ただしく時間が過ぎ、時には疲れてしまうこともありますが、そんなとき、ふと、私を癒してくれるのは、ここ阪谷の自然です。大野市内を一望できる広大な眺めと小鳥のさえずり。満天の星空と眼下の夜景。忙しさで一杯一杯になっている私をほぐしてくれます。子供たちは、学校から帰ってもランドセルを玄関に置いたまま、暗くなるまで外で遊んでいます。休みの日も朝から外へ。大声を出して田んぼをかけまわり、小川のカニを捕まえ、時には田んぼにやってきたキジをそっと追いかけることも。毎日、泣いたり笑ったりの子供たちのまわりにはいつも雄大な自然があります。近所の方も温かく見守って下さり、安心して外で遊ばせることができます。とてもありがたい環境です。

これからも、ここ阪谷の雄大な自然に、時には癒され、時にはエネルギーをもらいながら、心身ともに健やかであり続けたいと思えます。

現在、子育て中の私が楽しみにしていることがあります。

1つ目は、親子で活動に参加出来る、『愛育会』と『幼保園』です。子供たちは、すぐに打ち解けて、一緒に遊んでいます。また、親どうしも、子供の事を、きっかけに、様々な話などをして、和気あいあいとした活動になっています。

2つ目は、地区の『婦人会』活動への参加です。加入者は、様々ですが、そんな事、関係なく一緒に、講習を受けたり、食事を開いたり等、親睦を深めています。こちらの活動も、親子で参加することが、多くあります。それでも、活動に参加している方が、温かく子供たちの相手もしてもらっているの、大変有難いです。

以上の2つの活動は、とっても楽しいので、できる限り、参加するようにしています。

さらに、今春から子供の一人が、小学校に入りました。これにより大変さも増しました。が、その分だけ多く人と、関わる機会が増えました。

最後に、人との関わりは、煩わしいこともあります。それでも、私は、様々な考えを持った人と、話や活動と一緒にする中で、私自身も成長することがあり、有難く、喜びでもあります。子育ては勿論。多くの人に支えられているからこそ、楽しんでいられるのだと思います。

「ありがとう。」

私は、相田みつをさんの言葉が大好きです。

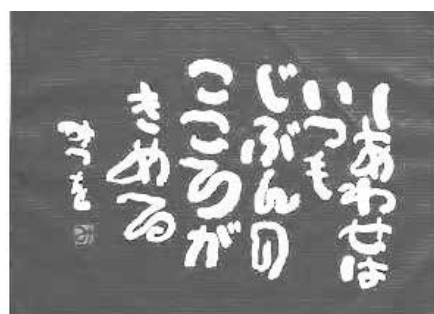
相田さんの言葉は、人間の奥底まで見透かされているような気持になる程、心に響く言葉が多いからです。良いも悪いも……中でも一番気に入っていて、自宅の玄関にも飾ってある言葉は、

「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」です。

人々が幸せとを感じる事は、千差万別です。

財産があれば幸せと思う人もいるだろうし、趣味に没頭していれば幸せという人もいます。

私は、今、自分がおかれている立場で、地に足を付けて何が幸せか？という事を考えて、日々生活したいと思います。



阪谷に戻って半年。その前は坂井市に住んでいました。

坂井市の友人や知人に聞かれました。

「大野の阪谷ってどこ？」

「六呂師方面だよ。」と答えると、

「白山ワイナリーがあるところ？行ったことあるよ。」

「大きい岩がゴロゴロあるところ？」

「阪谷小学校へ子どもの野球の練習試合で行ったことあるよ。」

と結構知られているんです。うれしくなったことを覚えています。

野山を駆け回って遊んでいた子どもの頃を思い出すと懐かしいです。生まれ育ったこの地はホッとします。昔と変わらない豊かな自然、清らかな水、棚田、一望できる大野市街地、夕焼け、お寺の鐘の音など、すべてに癒されます。

これから、母親の手解きで野菜など作物を自分で作りたと思います。一日一日を大事にし、充実した日々を過ごしていきたいと思います。それには、健康でないと、又、地域の方々との交流を楽しみたいと思います。

私は現在、阪谷のソフトバレーチームの練習に参加しています。きっかけは、母がソフトバレーチームに所属していたからです。

最初の頃は、初めて会う人も多く緊張しながらの練習でしたが、皆さん良くしてくれ徐々に打ち解け楽しくソフトバレーができるようになりました。

「大野はいい人ばっかやあ」と言われるとおり、本当に良い人ばかりです！

サーブを失敗しても笑って励ましてくれ、アタックが決まった時はハイタッチ、インかアウトでもめることも少々、でも本当に良くしてくれます。

最近では20代の若者も何人が参加してくれるようになり、賑やかな練習時間を送っています。正直、水曜日と日曜日の練習日が近づくとワクワクが止まりません。それくらい生活には欠かせないものになってきています。これからも続けていこうと思います。そして、ソフトバレーを通して阪谷を活気づけたいと思います。あ、只今メンバー募集中です。男女問わず。一緒に気持ちのいい汗を流しましょう。

私は、クロスカントリースキーというスポーツをしています。今日はこのスポーツについて紹介したいと思います。

阪谷に住んでいる方は、知っている方がほとんどだと思いますが、つま先だけ固定されたスキーを履いて、平地や、上り下りのあるコースを滑るスポーツです。ちなみに競技になると短いもので1.2km、長いもので50kmに及ぶものもありとても大変なスポーツです。

私が思うにこのスポーツの魅力は、冬の自然の中を滑るということです。冬なのでももちろんとても寒いですが、冬景色はとてもきれいです。コースごとで景色が全く違い、例えば石川県のコースですと、コース中盤で、目の前に白山が見えます。このような景色の中で滑るのはとても気持ちいいです。かつてこのスポーツをやっていた方々は「きつかった」というイメージを持っていると思いますが、機会があれば、一度無理のないペースで飲み物などを持って、スノーシューの様な感覚で、ゆっくりとコースを周ってみてもらえたら新しい発見があると思います。



私は一昨年秋から主人の地元である阪谷地区に住み始めました。その時一番不安に感じたことは、子どもの環境の変化についてです。それまで通っていた保育園に比べ、園児の数が大幅に少なくなり、新しい友だちができるのか、集団生活ができるのか、非常に不安に感じていました。

しかし、幼保園の友だちや、先生にも恵まれ、すぐに新しい環境に打ちつけることができました。また、園児が定期的に小学生と交流する機会があるので、未満児から小学生までみんなが仲よしです。

そして、私自身も近所の方々が優しく接してくださったおかげですぐ馴染むことができました。

雪が多かったり、スーパーが近くなかったりと不便な点もありますが、地元の方々の温かさや壮大な自然などたくさんの魅力があることに気づきました。

これからもこの阪谷地区で、子どもたちと一緒に成長していきたいです。

現在、私は3児の父として日々過ごしています。そして、今年4月には長女が阪谷小学校に入学しました。私も20年程前に在学していたのですが、建物自体は私がいた頃とほとんど変わっておらず懐かしさを感じましたが、児童数が自分の居た頃の約1/4と随分少なくどこか寂しさも感じました。そして児童数が年々減ってきた事から、小中学校の合併の話も最近よく耳にします。少人数で児童全員に目が行き届いたほうがいいのか、友達がたくさんいたほうがいいのか、どちらが良いかは子供たちが後々どう成長したかの結果でしか分かりません。現在の生活環境でどう成長していくか楽しみでもあり、不安でもあります。学校生活だけでその子の成長が左右されるものではなく、家庭環境もとても重要なので子供のしてみたいことは積極的にさせ、その中で成功と失敗を経験し、少しでもこれからの子供たちの糧となっていくよう努めていきたいと思っています。

かくいう私も新米の父なので子供たちと共に経験し成長して行こうと思います。

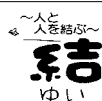
今年子どもが保育園を卒園し、春から小学生になります。保育園に入園してから三年間で、阪谷の魅力を知る機会がたくさんありました。

私は生まれてからずっと阪谷で生活しています。正直、子どもが生まれる前はただ住んでいるだけで、「阪谷ってどこ?」「阪谷って何があるの?」と聞かれても、もう今はないですが「六呂師スキー場があるところ」ぐらいしか答えることができませんでした。

しかし今は、保育園の行事に参加したり、雪まつりのようなイベントにも行ったりして、子どもを通して阪谷の魅力を再確認でき、また同じように聞かれても、私が感じた魅力を伝えることができます。

人口が少なく学校も今後合併して、生活する上で不便なことは少なくない状況ではありますが、子どもが自然の中でのびのび遊んで、笑顔で帰ってくる姿を見るたびに、阪谷でよかったと感じます。これから先、子どもたちが成長し、親元を離れ便利な生活を送れる環境が当たり前になっても、私が感じたことを少しでも子どもに伝えていってほしいなと思います。





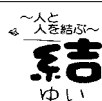
平成28年3月号 No341

自然の中の子育て

山上 理恵子 (伏石)

私の息子達は、阪谷の自然が大好きです。天気がいい日には外へ飛び出して行き、遊びを見つけ心のままに創作しています。田畑仕事の時には、大人について行き、飽きもせずずっと遊んでいます。遊びを通して自然から刺激を受けながらたくましく成長しています。

私は福井市出身の為、子供の頃経験できなかった事を阪谷に来てから経験できました。よく息子達と散歩をしますが、綺麗な夕焼けや星空、棚田の風景、小川のせせらぎを全身で感じる事ができ、阪谷の澄んだ空気や美しい景観のおかげで元気になることができます。また、人間関係も濃く地域の人々と親しくすることが心の支えになっています。阪谷の自然環境や人の良さを日々実感しています。これからも、この環境でのびのび子育てできればと思っています。



平成28年6月号 No344

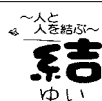
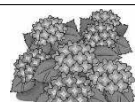


平成28年6月号 No344

子育て

山本 恵美 (八町)

私は、実家が勝山で、阪谷に嫁いで今年で3年になります。阪谷に来て、一番に人の温かさを感じました。地区の方々がすごく優しく、色々なことを教えて頂き、すごく感謝しています。愛育会の行事にも参加させて頂き、子育ての事、地域の事、色々な方と話す機会があり、すごく刺激を受けます。子育て初心者の中には、色々参考になる事もあり、すごく助かります。今年4月から保育園に行くようになり、最初は色々不安がありましたが、少しずつ慣れて、色々な事が出来るようになり、成長を嬉しく感じます。これからも、自然豊かな阪谷で親子共々成長出来たらと思っています。



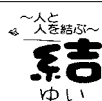
平成28年4月号 No342

さくらんぼ愛育会について

木下 八千代 (松丸)

愛育会を知って5年。娘が乳児の時は会員にはなっていましたが、ほぼ不参加でした。翌年の参加で保育園が違って小学校に入ったら顔を合わす人との交流が出来、安心に繋がると思いました。初めて恐竜博物館に行った1歳。グズって娘を抱っこしないといけない時に、当時の会長が荷物を持ってくださり大変助かったのを覚えています。私は元々出不精で主人は仕事が忙しいこともあり、娘は同年代の子より色々経験できていないと思います。なので、娘と共にエンゼルランドにも行け、その他色々な行事で初経験がたくさん出来た事に感謝しています。

年々会員数が減少してきています。まだ愛育会の会員になっていない未就学児をお持ちのパパママ！一緒に楽しみませんか？友達までいなくても顔見知りを増やしましょう！！きっと安心を感じる事が出来ると思いますよ！途中入会も大歓迎です！さくらんぼ愛育会をよろしくお願いします！



平成28年7月号 No345

阪谷でみつけた宝物

川端 真実 (八町)

以前は福井で、核家族での生活でした。今は母もいる阪谷での生活に本当に感謝しています。初めて阪谷に来た時は正直(何もないなあ・・・)と思った私・・・しかし娘が保育園に通うようになって考えが変わりました。「くわの実で遊んだ!」「皆でカニ探しに行ったの!」など毎日いっぱい豊かな自然を感じさせてもらえます。地域の方は、あたたかく声をかけてくださいます。大きなショッピングセンターなどはありませんが、ここには生きる力と心の土台となる大切なものがあふれていることを、地域の皆さんに教えていただいたのです。この宝物を大切に、そして感謝しながら一日一日過ごしていこうと思います。

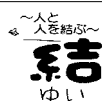


平成28年8月号 No346

新たな阪谷

横田 真美 (大月)

私は生まれも育ちも阪谷です。なので、阪谷の事は分かっているつもりでしたが・・・が、妻になり母になって、同じ阪谷でも地区によって風習があったり、未就学児の子どもたちが交流できる愛育会があるなど知らない事がありました。これからもたくさんの方と出会い、色々な事を教わりながら、新たな阪谷を発見していきたいと思っています。

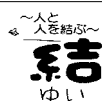


平成28年5月号 No343

自然の中で子育て

石塚 英里奈 (不動堂)

ある日、何気なく小学生の娘が「都会じゃなくて良かった。静かで自然がいっぱいのここがいい。」と言いました。友達と秘密基地を見つけに楽しそうに遊びに行く姿や、年齢に関係なく近所の子と仲良く遊ぶ我が子を見て、微笑ましく思う日々です。春夏秋冬、自然の中でいろんな遊びを楽しむことが出来る子供達です。近所の方も声をかけて下さったり、温かく見守って下さったりしてとても感謝しています。豊かな環境、優しい地域の方々がいらっしやるこの阪谷でのびのびと楽しく子育てしていき、子供と共に私も成長していけたらいいなと思います。



平成28年8月号 No346



平成28年8月号 No346

新たな阪谷

横田 真美 (大月)

私は生まれも育ちも阪谷です。なので、阪谷の事は分かっているつもりでしたが・・・が、妻になり母になって、同じ阪谷でも地区によって風習があったり、未就学児の子どもたちが交流できる愛育会があるなど知らない事がありました。これからもたくさんの方と出会い、色々な事を教わりながら、新たな阪谷を発見していきたいと思っています。



今年の夏に友達と久しぶりに遊びでバスケットボールをしました。昔の様に俊敏な動きとはいきませんでしたが、小学校でやっていたミニバス時代のことを思い出しました。バスケットを始める前の私といえば運動が大嫌いで、名水マラソンでも泣きながら走った事を今でも親から言われます。そんな私が運動を好きになったきっかけがバスケットなのです。小中高とバスケット生活。いつの間にか運動することが好きになっていました。辛いことも、悔しかったこともたくさん経験してきましたが今では良い思い出です。

久しぶりにバスケットをして、やっぱり楽しいなと感じました。今では身体を動かす機会も減ってきて運動不足ですが、過ごしやすくなる秋少し運動を頑張ってみようと思います。



朝散歩の通り道、Tさんの出窓をこの夏、朝顔のみどりのカーテンが幅広く伸びていて見るからに涼しそうだった。かあちゃんがせっせと如露で水やりして育てた。その如露(じょろ)、都会の高層住宅のベランダでも活躍している。こんな便利な器具をだれが発明したのか・・・と考える人は少ない。じつは阪谷の人だ。「村誌」にちゃんと書かれている。「大野郡阪谷・五箇村誌」は昭和4年(1929)、花房の中村飛知氏を中心に編纂(へんさん)、当時の阪谷・五箇両村役場が発行した。村誌は阪谷を知る唯一の歴史書である。大野町から富田を経て九頭竜川の吊橋をわたると阪谷。そこから唐谷川沿いの砂利道を上りきると「下駄屋」、「豆腐店・ブリキヤ」があった。ちようえもんの豆腐とあげは近在では有名、村祭りのごちそうには欠かせない。かあちゃんも早朝から石臼をまわして豆腐づくりにおいそがし。その店先のかたわらで、屋根葺き仕事の合間に、小槌でとんとんとタンを曲げたり伸ばしたり。ブリキはタンともいう。掌ほどの面にいくつも穴を開けて、ようやく如露先端の「ハスの実」ができた。昭和2年12月実用新案登録第112215号、榊川與三松。特許局長官

村誌が発刊されてやがて100年。労作ながら当時の旧かなづかい、旧漢字の多用で読みづらい。そのせいかあまり読まれていない。

小学の高学年にもなれば社会科の授業で読まれるような、新しい「阪谷郷のあゆみ」ができるといいな、と考え、パソコンに向かって奮闘中です。

「この花ナデシコですね。」

草取りをしていると、小さいお子さんを連れのお母さん。

「ほのかに甘い匂いもしますよ。」と私。

毎年スターランドのひまわりを見に来ているとのこと。千日紅、コリウス、ブルーサルビア、ナデシコ、マリーゴールド、コスモス、ヒマワリ、ジニア等国体の花です。

私は、平成26年から県の花いっぱい運動推進委員をしています。これは、30年の福井国体に向け、花であふれるまちづくりを推進し、来県者を美しい景観でおもてなしをするための県民参加によるものです。又、「ふっくりんバンク」を活用し、口座番号も持っています。ふっくりんバンクは、花の種貸出申込書に希望の花の名前、粒数を記入し、決定したら種貸出通帳が発行され、種を借りて花を育て、できた種をまた、返却する制度です。借りた種は営利目的に使用しない事が大事なことです。

私は、蒔いて育てた苗をスターランド、地区花だんに植えてもらいました。借りた種は返却されなければこのシステムは続きませんが、失敗しても次にどのようにしたらと考えれば良いのではと、私は考えています。毎年、サルビア、コリウスの種をとっていますが、翌春、芽が出るとうれしいものです。また、一番うれしいのは、市外のふっくりんバンクの会員の方からメールがきたり、私の住まいまで訪ねてくださることです。そして、お互いの花の自慢をしています。

“ナデシコの種とる手に 赤トンボ”

若かった高校時代。入学初日に「阪谷出身か。山家(やまが)」と言われて、悔しいやら卑下した記憶があります。

徐々に親友も出来て、ある日、五番商店街に高島易断がやってきたのでのぞいてみました。

「あなたは都会に出れば出世するけど、ふるさとにしか飲む水がない、ふるさとから出られないタイプだね。」と言われました。

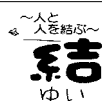
卒業後、都会を夢みて京都へ出ました。半年後、親の強いすすめで戻り、阪谷農協へ勤め、結婚、出産、退職、農業、縫製と阪谷人として充実した日々を過ごしています。

やはり、阪谷の水しか飲めない私です。

その長い人生の殆どは公民館事業の恩恵を受けています。初めての愛育会から婦人会、若杉会、現在は編物教室と老人会への参加です。その都度、友だちが増えていくのが最大の魅力です。阪谷もあの「山家」から一新しました。

お陰様で、阪谷へ優秀な都会人が嫁いで来られたのが、現在の「価値ある阪谷」へ進歩したのだと感謝しています。

これからも、公民館活動に参加して、若い優秀な方々に支えられながら老後を勉強し続けたいと思います。



平成29年1月号 No351

縁(えにし)

岸下 圭子(橋爪)

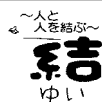
私が生まれ育ったここ阪谷に戻って、早や17年目を迎えます。縁あって2年前に、大月の「喫茶 ひまわり」で仕事をさせていただくこととなりました。

当初、未経験の私にできるかどうか不安でいっぱいでしたが、市内、県内外、もちろん地元のお客様から

「大野にこんないい景色が見られる所があったんや。」

「コーヒーが美味しいのは、水が美味しいからやね。」と仰っていただき、今迄当たり前だったことが、お客様を通して、阪谷には人に感動を与えてくれる宝物があることに改めて気付かされました。そして、ちっぽけな不安から救ってもらえた気がしました。

これからも、沢山のご縁に感謝しつつ頑張っていきたいと思っています。



平成29年2月号 No352

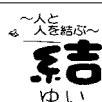
思(おもい)

山腰 文雄(花房)



結(い) この言葉を聞くと、若い時代の百姓仕事を思い出します。農家は田植えの季節になると、近所の家や親戚の人達とお互い助け合って早朝より、苗取り、そして横に並んでの田植え又秋の稲刈りも同様、作業合間の小屋(こびる)は、きな粉のおにぎりに甘から煮豆、たくわんをみんなでおいしくいただいたものでした。半世紀前の思い出です。今も集落での共同作業(総(そ)事)はその名残のように思います。

高齢者が増え、若者が働きに多く出る状況にあっても、互いに助け合って続けてほしいものです。



平成29年3月号 No353

母と過ごした日々

石塚 廣美(萩ケ野)

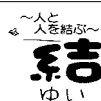
早いもので大野に嫁いで35年余り、あの頃となんら変わらない風景に囲まれて、私は母を感じる事があります。

何もできなかった私に、村の風習、野菜の育て方、料理の方法など、全ての事を教えてくれたのは母でした。今までどうにかやってこれたのも母のお陰だと思っています。でも、この様に思えるようになったのは4年前に母が亡くなってからです。

毎日、畑に出て汗を流し、家族の為に野菜を作る。これが母の楽しみでした。

しかし、85歳を過ぎた頃からベッドで過ごす時間も多くなり、働き者の母にとっては寂しい生活だったかも知れません。私はというと、母のできる事は本人に任せ、できない事だけ手を貸すといった接し方をしていました。今から思うと、もう少し言葉掛けが必要だったのではと思います。

母と過ごした30年間。いろいろありましたが、今思い出されるのは顔中しわくちやにして笑う真っ黒な母の顔です。



平成29年4月号 No354

阪谷に生まれて

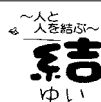
後川 昌晃(大月)

阪谷に生まれて、もう40数年が経ち、思うことを書かせていただきます。

運よく地元就職することができ、早くに結婚したことで、いろいろなことで阪谷地区に関わることができました。

昨年の春まで小学校のPTA会長を務めさせていただき、いろいろな経験がありました。児童数が少ない中で、子供達の学校生活が楽しくなればと、校内体育大会に保護者などが参加できる機会を作っていただき、いろいろ楽しい思いをさせていただきました。

今年は、3回目となる大月区の区長を務めることとなり、違う形で阪谷地区に関わっていくことになりました。区長さん方と協力して、阪谷地区が魅力的な地区になるように努力していきたいです。皆様方のご協力をお願いします。



平成29年5月号 No355

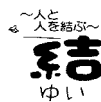
「第2の人生」

田原 祐子(南六呂師)

今年3月で37年間の勤め人人生を終えた。定年まであと1年あったが、愛娘の妊娠を機に、子育てを応援してやりたいと、易く意を決した。

「さて、第2の人生、自分は何をやりたいのか・・・」第2の自分探しは、人生を振り返り考える良い機会であった。あれも、これも、それも、etc. やりたいことやすべきことが、次から次へと浮かんで消え、消えては浮かび・・・そして最後に心が叫んだ答えは「農業」だった。農業という大げさかもしれないが、土と触れ合うこと。実母の田畑で働く姿が心を押した。私も母のようになりたい。カエルの子はカエル。第2の人生を、この阪谷の六呂師の地で、花や野菜を育てながら大地と共に生きていきたいと思う。

先日、JA女性部主催の「土づくりセミナー」に出席した。顔なじみの阪谷の方が多くおられて、とても嬉しかった。どうぞ諸先輩の皆様、新米の私をこれからもよろしくお願い致します。



平成29年6月号 No356

元気の泉・書道

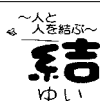
長谷川 昌子(南六呂師)

私が書道の道を歩む事となったのは、小学校の習字の先生から、「字がうまいね。習字を習うといい。」と言っていたいたのがきっかけです。そして、勝山の杉下土龍先生の塾へと通いはじめ、特選をもらうようになり、褒めてもらう喜びを知りました。また、幼い私には大きかった半切を書き、大阪・天王寺の展覧会、東京の展覧会へと出品して賞を頂きました。県外の会場へ出向くことは、小・中学生だった私にとっては、心躍る体験でありました。

私の所属する団体、奎星会は第三代会長として20年近く牽引してこられた福井出身稲村雲洞先生が、昨年91歳で死去され、続いて、大野美術協会も牽引されてきた山崎灘青先生まで死去されて、本当にさびしさを感じます。

そのような折に、今年、63歳にして、審査会員にならせていただき、先人の先生方から“がんばれ”と言われていたようです。

墨の香りを嗅ぎ、五感を研ぎ澄ませ、心静める時間が、元気の泉であり、日々感謝しています。(号) 谷澤 晶華



平成29年7月号 No357

阪谷地区戦没者慰霊祭に参加して

雲乗寺住職 長谷部 祐円 (南六呂師)

今年も阪谷地区戦没者慰霊祭が厳かに厳修されました。運営方法が少し見直されましたが、これまでと同様厳かな慰霊祭であったと思います。

終戦後72年が経った今、阪谷遺族会会長様のご挨拶で「年数は経過したが、追悼の念は風化させたくない。」とおっしゃいました。ここ数年来毎年のようにお聞きしています。このことは、戦没者への追悼の念だけでなく、多くのご家庭でもご先祖に対する追悼の心が薄らいできていることと、共通していると思います。私共住職方にも、この社会全体の動きを止められない責任があるかもしれません。

阪谷地区も核家族化が進み、子や孫に物事を伝統することが難しくなっています。私たちは、戦没者はもちろん先祖から連続していただいている命ですから、自分の存在は先祖のおかげであるということと、先祖に対する供養の気持ちは持ち続けなければなりません。この念を、ぜひ子や孫に伝えたいものです。

慰霊祭も年々参詣者が減少し、追悼の念が風化しつつあるように感じます。会員1戸あたりお一人だけでなく、子や孫に伝えていくために、ご家族同伴での参詣焼香をお勧めします。



平成29年8月号 No358

阪谷に暮らして

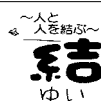
村上 美代子 (蓑道)

阪谷に生まれて、暮らして60余年になります(一時離れていたこともあります)。

子どもの頃は、学校からの帰り道が、家まで上り坂で嫌だったこと、「やまが」と言われるのが嫌だったことなど、なんでこんなところに家があるんだろうと思ったものでした。でも今では、ここもいいところだなと思っています(冬以外は)。

阪谷で好きなところは、何と言ってもおだやかな風景です。家の近くから見下ろす大野盆地、夕焼けの空、石谷の坂を下るとき、たまに見られる雲海、田んぼに点在する大きな岩、六呂師へ上がっていくときの高度感、高原牧場の広々とした風景など癒される景色がいっぱいです。小動物との出会いもあります。また、近所の方たちの心遣いもありがたいもので、野菜や苗などを分けていただいたり、孫たちにいつも声をかけてかわいがっていただいたりするのも嬉しいことです。

このような豊かな自然に関わり、幅広い年代の人たちとの関わりの中で育つ阪谷の子ども達は、きっと感性豊かで、たくましく、人を思いやることができるのではないかと思います。ただ、この先、自分が高齢となり車に乗れなくなったり、雪かきもできなくなったら…と不安に思うこともあります。これから安心して住み続けられる阪谷であってほしいと願います。



平成29年9月号 No359

遊びと学びのフィールド

山上 耕平 (伏石)

私には二人の息子がいます。二人ともここ阪谷の、さくらんぼ幼保園に通っていました(います)。

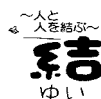
そこでは、自然の中の素材を使った遊びや創作を思う存分楽しんでできました。土、水、石、木々、そして生き物など原体験を通して、この地ならではのものをたくさん感じ取り、学んでいると思います。

私もずっと阪谷で暮らしていますが、二人の息子の外で遊ぶ姿を見て、森の中へ探検に行ったり自転車で走り回った子供時代の頃をよく思い出します。阪谷は四季がしっかりあり、少し歩けば山や川、田んぼなど、少し探せば遊んだり学ぶことができる素材がたくさん揃っているのも、私はこの地での子育てをとっても楽しんでいます。

「野遊び」という言葉がありますが、最近妻が「家族でキャンプしたいよね」と言った一言で一つ目標ができ、ますます自然の中で遊ぶ楽しみが増えました。だんだん年を重ねると机に向かうことが増えますが、週末こそ、この「野遊び」を息子たちとたくさんしたいと考えています。

ここ阪谷では遠くに行かなくても、家から出ればそこが遊びのフィールドです。キャンプの予行演習ではないですが、最近週末になると外で昼食をとることがあります。それだけでも気持ちがよくて、ご飯がいつもより美味しく感じます。また小枝や葉っぱを集めて焚き火をしたり、そこで暖をとったり芋を焼いたり、息子達も楽しみながらいろんなことを聞いたり手伝ってくれたりします。このような体験を通して、どうしたらこうなる、どうしたら上手いかなど自然と考える場面が出てきて、知恵や応用力が身につくと思います。

やや不便なところもある阪谷ですが、この地の素材を使った遊びや学ぶこと、息子たちにたくさん経験させてやりたいと思います。もちろん自分も思い切り楽しんでいきたいと思っています。



平成29年10月号 No360

プレ大会の自転車競技を応援

水本 剛志 (花房)

福井国体のプレ大会「全国都道府県対抗自転車競技大会」が、先日、大野市で開催されました。この阪谷地区は周回コースになっており、多くの選手が駆け抜けて行きました。

私が観戦した場所は、近所の緩やかな下り坂でした。初めて観る自転車競技で、自動車とほぼ同じような速さで走り抜けていく選手たちのスピードに圧倒されました。何人もの選手が、接触しそうな距離で集団となって走っており、はらはらして観ていました。

ネットの中継サイトでもレースの展開を観ることができ、阪谷橋から六呂師に向かっての上り坂では、選手たちも厳しい様子で走っていました。私は学生の頃、同じ道を自転車で登ろうとしても登りきれなかった経験があり、この上り坂を5回も上るという所にレースの過酷さを感じられます。六呂師から一気に下がってきた先にある直角の曲がり角では、見事な技術で曲がってました。そして、福井県代表の選手が先頭争いをしながら市街地を走る様子に興奮しました。目の前を横切るのはほんの一瞬でしたが、選手の表情や息遣いを感じられました。

また、沿道に出てみて感じたのは、ボランティアの方々、地区

の応援の方々、先導や救護といった数多くの人が大会を支えているということです。前日までの大雨で、準備も思うように進まなかったかと思いますが、当日にはきっちりとコースは整っていました。大会の裏側で多くの方の働きがあって、大会が運営されていることを実感しました。

来年はいよいよ福井国体です。運営や選手ではなくても、応援として大会を盛り上げていきたいと思います。

～人と人をつなぐ～
平成29年11月号 No361
系吉
ゆい

ずっとお元気で！

中尾 繁史（花房）

こんにちは。花房の中尾繁史です。ご縁ありましてこの文を書くことになりました。依頼を頂いたのが阪谷地区の運動会の日でしたので、運動会に参加して思ったことを書きます。私は10年程県外で生活していましたが戻ってきました。戻ってから今まで、ふるさと大野は自分の子どもの頃と大きく変わった様に思っていました。運動会で活躍する皆さんを拝見し、そうでもないことがわかりました。客観的に見れば、人口は減り続け、地域社会として限界を迎えつつあるのかもしれませんが。しかし阪谷に暮らす人たちは皆さん笑顔でした。皆さんお元気でした。この点で、自分の子どもの頃となにも変わっていないと感じました。

人は、笑顔で、健康に過ごせることがいちばん幸せなことなのだと思います。未来のことを不安に思って暗い顔で過ごすより、周りの人と一緒になって今という時間を楽しみながら地域で暮らすことが活性化につながるのだと思います。簡単に言えば、子どもたちは子どもらしく遊び、大人たちは程々に働いて、あとは大人らしく（パチンコ以外で）遊べばよいのです。地域に住まうみんなが楽しそうな顔をしていると「なんにもないのに何が楽しいのか？」と不思議に思う人ができます。そうなったらしめたものです。ふるさとに帰ろうと思う若者も増えます。ないものを得ようとして、失ったものを取り戻そうとしたりすることはとても大変ですが、今あるものを楽しむことはそれほど難しいことではないと思います。これを実現するためには皆さん元気でいてもらわなければなりません。ですから、皆さんずっとお元気でいてください。お願いします。

～人と人をつなぐ～
平成29年12月号 No362
系吉
ゆい

阪谷はええとこやの～

中尾 友香（花房）

今回良い機会を頂きましたので、阪谷の良いところについて考えてみました。

まず、大野を一望できる眺め。これは本当に阪谷に生まれてよかったなと思う点です。春になれば、阪谷小学校の周辺の桜はとてもきれいですし、緑が深まる初夏の山並みも、生命の息吹を感じて頑張るぞとやる気にさせる景色が広がります。夏の花火大会では混雑することなく、ライトアップされた大野城を背景にしてゆったりと夏の夜空を楽しむことが出来ますし、秋になれば色づいた山々を間近で見ることが出来、冬になれば雪こそ多いものの、一面の銀世界に囲まれて静かな風景を楽しめる。こんなに四季折々の風景を楽しめるところは他にないのではと思っています。私自身、一度県外にでて生活してみたいと思い金沢市に住んだこともあります。やはり故郷に勝るものはありませんでした。

次に、農作物のおいしさ。自分の家で採れた野菜や米はどれもおいしく、ついつい食べ過ぎてしまうほど。農家に生まれたこともあって、繁忙期にはたとえ仕事が休みであっても手伝わなければいけません。収穫を迎えた時の喜びはひとしおです。

最後に、人柄の良さ。ご近所同士で収穫した野菜や頂いたものを交換し合ったり、散歩に出れば友香ちゃん元気の～？なんて気さくに声をかけてくださるのは嬉しいものです。地区の行事に出れば、久しぶりに会った方々には大きくなったね～と言われますが、それもそのはず、26歳になりました。

私は住む人の心が温かい阪谷が大好きです。小学校の頃から地域ぐるみで育てていただいたおかげで今の私があります。これからは皆さんに恩返しのために行事ごとにかかわっていきたいと思いますので、お会いした際は気軽にお声かけくださいね。

～人と人をつなぐ～
平成30年1月号 No363
系吉
ゆい

気を付けて頂きたいこと

宮田 勇貴（伏石）

こんにちは。伏石の宮田勇貴です。ご縁ありましてこの文を書くことになりました。依頼を頂いたのが仕事のことでした。現在私は、大野警察署で警察官として働いております。今回はこの場をお借りして皆さまに気を付けて頂きたいことを書きたいと思います。

皆さんも良くご存じだと思うのですが、オレオレ詐欺等の特殊詐欺事件です。昨年1年間で、福井県内における特殊詐欺の被害件数は53件、被害総額は約2億6000万円弱でした。しかし、今年は、過去最悪の状況で、9月末までに被害確認件数が64件、被害額が2億2500万円となっており、昨年の同時期と比べて約1億3000万円増の被害額となっています。

また、3月には大野市内でも800万円、8月末には85万円の被害申告を受けております。しかし、警察が被害の届出を受けた被害件数は氷山の一角であり、実際の被害件数はそれ以上になっていると思われます。

そこで、最近の主な手口について申し上げます、

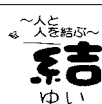
- ①子を名乗り、会社の損失補てん金要求の詐欺
 - ②還付金詐欺と呼ばれる医療費、保険料の払い戻しの詐欺
 - ③警察官、市役所職員等の公務員を名乗る詐欺 等
- があります。

このような、電話が架かってきたときには、ご家族や友人、警察に相談するという癖をつけておくことも被害防止の手段だと思います。どうか、悪質な手口の詐欺事件の被害者にならないようにご家族で注意して下さい。

最後になりますが、慌ただしく感じる師走ですが、体に気を付けてお過ごしください。

平成30年も皆様にとって素晴らしい年でありますように。





平成30年2月号 No364

Hill Valley

多田 将也(松丸)

今回、このような機会をいただきましたので、昨年結成した草野球チーム「Hill Valley」のことを中心に書かせていただきます。

「Hill Valley」この英単語を聞いて、ピン!とくる方はいらっしゃるでしょうか。今回結成した野球チームの名前なのですが、「阪=Hill」「谷=Valley」と阪谷を英語に当てはめたのです。この阪谷愛を全面に出したチームなのですが、自分含め、20人近くの阪谷スボ少で野球をやっていたメンバーを中心に活動しています。思い返しますと、私は15年前、阪谷スポーツ少年団(現在は無いのですが…悲)の野球部に入りました。学校が終わってから日が暮れるまで、野球をしていたことを懐かしく思います。休になれば遠方へ試合をしに行ったり、スボ少に入った後は野球のことしか頭になかったような気がします。大好きな野球ですが、楽しいことばかりではなく、きつかったことも思い出します。今となっては懐かしく笑い話なのですが、監督・コーチの厳しかった練習です。現在の「Hill Valley」でもスポーツ少年団時代の父母の方に支援いただき、大変感謝しております。

昨年は野球の大会に出るばかりでなく、阪谷の夏まつりに「Hill Valley」として出店させていただきました。恥ずかしながら久しぶりの夏まつりの参加となったのですが、阪谷の良さを改めて実感いたしました。阪谷は小さな地区で数年前に比べて人口も減少しているのだと思いますが、世代を超えたつながりがあると感じています。

最後になりますが、今回、阪谷のつながりということで元スボ少メンバーが集まり野球チームを結成できたことを大変嬉しく思います。また、今後も阪谷の盛り上げのために貢献できればと思っていますので、何卒よろしくをお願いします。

*Hill Valleyは春～秋までたまに阪谷小学校のグラウンドをお借りして練習などしています。



平成30年3月号 No365

越して来て…

番屋 久美子(伏石)

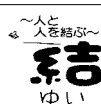
こんにちは。番屋久美子と申します。今回ご縁を頂きましてこの文を書かせて頂きます。

私はもともと旧和泉村地区出身です。結婚を機に「大野で一番眺めの良いところで生活をしたい」という思いからご縁を頂いて伏石に引越して来ました。

この土地に来て右も左も解らない新参者ですが地区の皆様が温かく迎えて下さりとても感謝しています。

阪谷は本当に大野市内が見渡せて、CMの撮影に使える位の最高の絶景スポットだと思います。毎日「本当にぜいたくなぁ」と話しながら夕日を見てご飯を食べています。

何より一番良い所は、都会みたいに、あくせく時間にしばられず、毎日ゆったり、ゆっくりと時間が流れる様に感じられる場所。自分らしく自由なライフスタイルが送れる場所です。これからもステキなこの場所でスローライフを楽しんでいきたいと思っています。



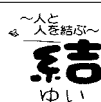
平成30年4月号 No366

また1年

山本 暁慧(松丸)

私は阪谷に生まれ30数年になりますが、今年2月の大雪には参りました。数日間に渡って降り積もる雪を見て、いつ止むんだろか、屋根雪を下ろさなくては、などの不安をおぼえました。阪谷小学校も休校となり、息子達は大雪を喜び休校を喜び、大人の感覚と真逆なんだと改めて驚きました。

阪谷は、降雪量も多いですが、解けるのも早い。風の影響なんです。いち早く解けて顔を出す棚田を見て、春の訪れを感じました。今年、長男の中学入学や、諸々の環境変化がありますが、気を引き締めて頑張ろうと思います。



平成30年5月号 No367

「福祉のこころ」

黒田 宗雲(堂嶋)

春眠暁を覚えず、小禽(こどり)は囀り鶯は頻りと啼くを聴きて目醒む今日この頃、薫風百花繚乱、萌え出する草木、新緑は淡く光り輝く紺碧の空に映えて山野を彩って自然に恵まれた阪谷郷は宛ら桃源郷のようである。この天然の美は春夏秋冬(青朱白玄)四季折々に変化を遂げ、山高く、水清き溪流、奇巖怪石点在し、起伏に富み、眺望絶佳の景観はこの世の浄土のようでもあり、筆舌に尽し難い。

この郷に來住して、いつしか四十年の歳月が流れ、後期高齢者と謂われるようになりました。この間、地区の多くの方々に支えられ励まされ乍ら、お陰様で今日迄何事もなく暮らさせていただきました。

この頃殊に思い願うことは急激な社会機構の変革に依り歪が生じ、少子高齢化が進み社会生活に大きな支障と混迷が続いております。

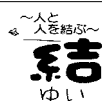
この現実に向き合い、地域福祉に少しでも貢献できればと願っております。住み慣れたこの佳き地で生涯を終えられることを希い乍ら、是非阪谷の地へ介護福祉施設の誘致運動を転回しなければと念願をしております。

このためには地域の方々のご理解とお力添えご支援を得なければなりません。

合掌

ねがわくば 花の下にて われ死なむ 春如月の 望月の頃
西行法師

阪谷地区社会福祉協議会 会長 黒田宗雲



平成30年6月号 No.368

ユニフォーム

岩本 喜代英 (松丸)

作業小屋の前に積まれた200枚余りの育苗箱。今年も田植えが終わった。ゴム長をはく。合羽スポンも。それらはこの作業のユニフォームみたいなものだ。

ユニフォームを着けると心がひきしまる。今日はこれを洗ってしまうぞ。

育苗箱を一枚一枚さしこむ。洗い機から跳ね返るしぶき。泥で汚れた育苗箱がきれいになる。黄色い、洗った苗箱が軽トラの荷台に積み上がっていく。

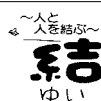
洗いながら、考える。80歳…か。若い頃は、60くらいの人を見ると、どことなく年寄りに見えた。自分はどうか見られているだろう？ 老いては子に従え、と聞いたこともあるな。だが、いま、「年寄りのくせに」なんて人から言われるのはいやだ。まだまだ負けないぞ！ 何に負けないのか、じいさん。

神社の雪囲いでのこと。運動靴をはいて、スパナを持って出勤。みなと一緒に仕事をするのは楽しい。はしごへ上って留具のネジを締める。「危ないぞ、高いところへ上がって」とまわりから注意される。いたわりの言葉でもある。

月火水金はみんスポ卓球練習日。軽トラでアリーナに乗りつける。のんびんだらりん生活のじいさん、それなりのパンツとシャツのユニフォームに着替えると気持ちがしゃきっとする。まずみんなでラジオ体操。球を打ち合う前に、ひとつ走りしてくるか。老体が前をむく。走りだす。ユニフォームにはそんな力がある。

5月と言えば、クラブ会員増強月間。もう「老人クラブに入っ」とは言わない。「いきいきクラブ」のユニフォームに着替えた。スタイル一新し、会員募集中です。

65歳から、あなたも心身共に斬新なユニフォームに着替えませんか。



平成30年8月号 No.370

結いで助け合って開墾

湯下 繁雄 (南六呂師)

じいさんの名は仁太郎。私が中二のとき86歳で亡くなりました。じいさんは畔に腰をおろして、「こっちゃんや」と私を呼び寄せて、ひとり語りのように話すのでした。今回、そんなことを思い出し、書いてみることにしました。

いま、中部縦貫道は向かいの荒島岳の裾、蕨生地籍で着々と進んでいます。夜涼みがてら家の前に立つと、満天の星の下、その一角で工事のライトが光り輝いて見えます。背後の経ヶ岳は闇のなかに眠っています。

じいさんの話によると、経ヶ岳の背面、その向かいにヒエ畑があって、五箇地区の打波の住人がそこを開墾して稗(ヒエ)を作っていたとのこと。その頃は食糧難の時代で、高地の六呂師を見ても解る通り、丘陵地を手作業で開墾して田畑を造成したのです。

六呂師では旧陸軍の演習場が「野」にありましたから、敗戦後、耕地を増やす国政にのって高尾山の近くまで開墾されました。それが補助金制度の始まりかもしれません。稲津さん、中畑さん、米村さんがリーダーとなって「入植者」を組織した開拓組合を作り、また村では、家族が多い家はその面積も多くなる方式で1反割、2反割と決められたようです。各人は競争で唐楯(かなくわ)や唐づる(つるはし)を使ってひと楯一楯、荒地を開墾したのです。大岩や松根などが出てくると、近隣同士が助け合って除去したと聞いています。

助け合うことを「結」といい、田植えに一日頼んだら、後日、田植えなどに一日出かけて返す。そのことを「結い」と言い、それが詰まって「い」と言ったものです。

食べ物が潤沢な時代、その裏にある古人の労苦がしのばれます。



平成30年7月号 No.369

お客さまとの絆

天野 文代 (松丸)

私が松丸へ来たのは23歳(世間知らずで向こう見ず)だったので、マッチ箱にも満たないちっぽけな美容室ですが、自分で出せた精一杯の店なのであまり恥ずかしいとは思いませんでした。

でも、親戚の方々には申し訳ない気持ちはありました。自分で目指したとは言え、お店と子育ては大変で、あの頃はお客様に赤ちゃんのお守りして頂き、どれだけ助けていただいたことか…。

それに42歳で病気になり、90日入院して、お店を休ませてもらいました。その後、お客様から「どんなんだったわ!」、「元気になっとなって良かったわー」と言われ、そのやさしさ、ありがたさに改めて感謝し、自分が必要とされているという事に気付きました。この感謝の気持ちを忘れずに、これからもお客様との絆を大切に一日でも長く頑張らせてもらおうと思います。



平成30年9月号 No.371

阪谷福寿会の会員になって

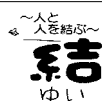
川端 千津子 (松丸)

私が会員になったきっかけは、60才になった時にソフトバレーボールの選手に誘われて入会させていただきました。当時は老人会員とは思われないくらいメンバーの方々も元気で楽しく練習が出来て色々な事を学びました。9年経った今は少しずつメンバーも変わりつながりも増えてきていますが、現在は会員数も減少気味です。

その様な中、福寿会は研修旅行他、いろいろな年間行事があります。月一回のサロンなどもゆっくりお湯に入り、食事をして、おしゃべりをして楽しいことが多いです。

60才から会員になれますので、1人でも多くの方々に加入して頂き、健康で楽しく過ごせる福寿会になるといいなと思っています。

元気で毎日楽しく過ごしましょう。



平成30年10月号 No.372

自分の置かれた場所で

黒田 ちづ子 (堂嶋)

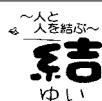
「あなたを平成27年度から3年間、農業委員に選任します。議会推薦です。」と辞令をいただきました。知人から書類を借り、勉強(?)しました。毎月25日の総会、農地パトロール、年度末3月には市議会議長報告、県の会議、県下女性委員だけの総会研修等々沢山ある事を知りました。体に気を付けて出来るだけ出席しようと決めました。

北信越ブロック女性農業委員研修会に興味がありました。27年度 あわら市、28年度 長野県千曲市で私は“テーマに惹かれて”出席して報告を『委員会だより』に記しました。100名余りの出席で女性農業委員の視点で担当地区の活動状況や課題等を意見交換する事で今後の活動に資するものでした。

29年度の県の女性農業委員総会で「奥越で県の女性委員研修会を開催して欲しい」というお話を引き受ける事になりました。9月2日、会長、副会長、大野の女性委員4名で「スターランドさかだに」にて日程、テーマなど相談した結果、平成30年2月23日(金)に決定しました。私は雪の事が心配でした。嶺南からも出席します。2月になりましたら県の方から「雪は大丈夫ですか?」と言われましたが、「奥越大野の力で消えるかも知れせん」と答えました。当日、23日は曇り時々晴れでした。

阪谷は食育の祖 石塚左玄先生のゆかりの地であります。テーマは「奥越の風土と歴史を活かした地域での食育活動」で石塚左玄塾の石塚憲治副理事長に講演と解説をお願いいたしました。左玄先生は家庭の教育で食育の要素は非常に大切だと訴えておられる等と解りやすく説明を受けました。この後、食事の材料はほとんど阪谷産で作りました。出席者の方から「沢山のご馳走、ありがとうございました。また、機会を見つけてこちらへ寄せていただきます」と嬉しいお言葉をいただきました。

私はこの研修を通して農業委員としてもたくさんの方に会えて仲間が出来ました。感謝しております。



平成30年11月号 No.373

新たな出会い

伊藤 武雄 (橋爪)

ご縁があって、4月からスターランドさかだに振興会で仕事をさせていただいています。

住まいの橋爪から通いながら、園内の清掃、整備やぼかし等有機肥料の作成・販売、野菜類の栽培、玄そばの製粉、そば処でお蕎麦の提供、山菜祭り・ひまわり祭り・お月見・収穫祭・どんど焼きなどのイベント開催、他のイベント参加、子供たちの農業体験等と経理総務を行っております。しかし、そば打ち、畑の整備・栽培等技術と経験が必要な業務は、まだまだ出来ていなくて勉強中です。

おかげさまで、地区の皆様のご利用、大野市内、県内、岐阜大阪京都等の近隣地域からも、ご家族連れ、お友達、職場の仲間等でご利用いただいています。

今年は、ひまわり畑に「インスタ映え」を目的に若い人たちが多数来られるようにもなりました。

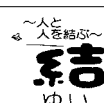
前職では、農業への情報通信システム導入について農業をしている人たちと一緒に勉強していました。温度、湿度、日照等の測定、水路の開閉等を自動で行い、農作業の効率化を安い経費であることを検討し、熟練した人の作業管理を記録することによ

り、農業を引き継ぐ人、新規で農業を始める人達が、ベテランの技術を早く習得することを目指していました。

植物にも感情があるのではないかと思います、心電図を測定する電極や針を植物に着けて「体内電流」を測定して、温度や水やりで変化することをハウスのミニトマトで実験しました。また、害虫や病気でも反応し、音や人が近づいたり、触ることで反応することが分かっています。

昔から言われた「畑には通わなあかん、声かけると育つぞ」は植物には分かっているのでは。

将来は、植物と対話できるようになるのと思っています。スターランドさかだにに来て早半年になりますが、まだまだ分からないことや出来ないことが多くありますので、今後とも皆様のご支援やご協力をいただき続けていきますので、よろしく願いたします。



平成30年12月号 No.374

阪谷青年団結成

笹山 晃一 (森本)

皆さんも知ってのとおり、阪谷地区において青年団が結成されました。周囲の方からは「再結成」と言われていますが、僕たちは0(ゼロ)からのスタートだと思っています。以前あった青年団のことは僕自身良く知りませんし、活動方針もどういったものだったのか。しかし、それも今はありません。なぜ、無くなってしまったのか。全国の青年団でもよく聞くのが「活動がマンネリ化する」「メンバーが集まらない」「私生活が忙しくなる」など様々であると。単純に今あるイベントに参加しているだけでは、青年団が無くなるのも分かる気がします。

しかし、無くなった青年団が新たなメンバーで結成されました。今回は市や公民館の呼びかけではなく、自主的に呼びかけて集まったのです。

結成にあたって集まったメンバーが思っていることは「阪谷をどうにかしないとまずい」という考えでした。人口が減り、若者が減り、子供が減り、仕事が減り、大野が廃れていく。観光客が増えても人口は減っている、皆が知っていることです。現状が気に入らなければ他で住めば早い話ですが、そんなことはしたくない。なぜなら「阪谷が好きだから」生まれ育ったこの景色が、学校が、田んぼや畑が、僕たちの故郷なのです。故郷のために、ここに育つ新たな人たちのために僕たちは青年団を作りました。

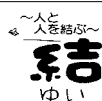
正直、今から何をすればいいのか、活動をして本当に良くなるのかは分かりません。ただ、「故郷のために」という柱を各々がもって楽しく活動していけば、地域は変わっていくのではないかと考えています。今ある資源や素材は他の地域と比べてもそんなに変わらないでしょう。それを劇的に変えていくのが人の力だと思います。そこに住む人たちが地域に色を付けて、魅力をつけて発信していくことが今の時代に大事なのではないのでしょうか。

そのためにはもっともっと仲間が必要です。僕たちと楽しく阪谷で活動しましょう。そしてここ住む自分たちの手で阪谷を少しずつ変えていきましょう。皆さんのご連絡お待ちしております。周りに良い若者がいたら紹介してください!僕たちの集まりに招待いたします!

阪谷青年団 団長 笹山晃一

TEL: 080-3047-5527





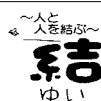
平成31年1月号 No375

阪谷地区に移住して

北川 真紀 (八町)

今年9月より東京都杉並区より阪谷地区に引っ越してまいりました、北川真紀と申します。大野市はゆかりのない土地でありましたが、盆地のなかで水の循環が完結している珍しい地形と自然に近い暮らしに興味を持ちました。調査・研究を生業としていますので、今は大野にて、水や雪などの自然環境と社会制度、生活文化を調べてまわっています。専門は文化人類学(民族学)という学問です。研究を仕事にしているといえど、駆け出しでまだまだ調査も前段階。興味をもった分野に関してお話を聞いていると、大野には私が調べる必要があるのかしら、と思ってしまふほど知識も経験も豊富なエキスパートの方がたくさんいらっしゃる事が分かってきました。そんな中で私ができることは、日常に埋没する「あたりまえ」を掘り起こすこと、そしてそれらを歴史という縦の軸と、ひろく世界と比較する横軸に位置づけて、新鮮な大野のイメージを描いていくことだとおもっています。

「大野はなににもないでしょう」という言葉を何度か耳にしましたが、退屈に感じることは全くありません。東京から引っ越してきましたが、都会と比べれば「あるものばかり」です。きれいな空気があり、美しい景色があり、美味しい食べ物があり、自然の遊び場があり、広い家がある。ただ、それはあくまでも外からの視点なのかもしれません。もしかすると「なににもない」とおっしゃった方は、昔に比べると減ってしまった人の気配や、家の灯り、多くの人と共有する賑やかさを心に描いていたのかもしれません。それは私にはわからない部分でした、ぜひとも皆様よりお話を聞かせただけだと嬉しいです。大野のことを、そして私が住まわせていただいている阪谷をよりよく知りたいと思っています。すべてのご縁に感謝しつつ、限りある時間のなかで阪谷の日常をたくさん発見できれば幸いです。



平成31年3月号 No377

阪谷を少し離れ、鯖江に住んで

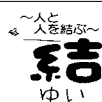
岸本 陸(森本)

僕は高校進学の関係で、鯖江で寮生活を送っています。鯖江に住んで感じたことがいくつかあるので、書いていこうと思います。

まず感じるのは、自転車があればショッピングセンターやホームセンター、コンビニ、病院など行けるところがたくさんあるということです。阪谷では、自転車を使えば大野市街に出ることはできますが、帰りは坂がたくさんあるのでなかなか帰るのが大変です。そのためどうしても車が必要になり、子供にとっては住みにくい地域になってしまうと感じます。これを何とかするためには、阪谷にそういった施設を作るというのは現実的ではないです。そこでその施設まで「簡単に、安く」行くことができる、ということが必要だと思います。しかし交通機関がなく、高校へ通うのも大変なので、阪谷から大野市街や福井へ出ていく人が後を絶たないのだと思います。

そんな交通機関のない阪谷ですが、鯖江よりいいなと感じることがいくつかあります。例えば、星のきれいさです。鯖江でも星を見ることはできますが、やはり街灯が多いのか、阪谷で見る星の方がとてもきれいだと感じます。特に六呂師から見る大野市街の夜景と、星は別格です。また、川のきれいさについても寮生活を始めるまでそれほど感じませんでした。鯖江の川と見比べると阪谷に流れる川はすごくきれいだと感じます。

今のまま、阪谷の過疎化が進めば、このきれいな自然の中で育つ子供が減ってしまうと思います。僕は、小学校の頃虫取りをしたり、星を見たり、川で遊んだり自然の中で育てられました。この経験は貴重なもので、この経験ができる子供たちが増えてほしいです。



平成31年2月号 No376

さかだに愛

萱岡 名月(不動産)

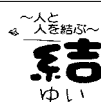
阪谷青年団の萱岡名月です。ここ阪谷の土地で生まれ育ち、今年度で成人となりました。「阪谷って何あるん?」と聞かれた時に地元の人が場所やモノを紹介できるような環境をつくりたい、と日々考えています。「何もない」と応えてしまうことが一番寂しい。

わたしは当たり前のようにBBQや花火ができて、星が綺麗でご飯が美味しく、新鮮なキュウリが食べられる阪谷が大好きです。離れていく人もいますが、私はこの土地が好きなので、なんらかの形で生涯関わっていきたいと思っています。

高校の授業をきっかけに写真を撮る事が好きになりました。今は、阪谷の風景やモノを撮ってSNSを使って外に発信しています。季節や時間によって変わる風景やモノを発見するのが凄く楽しいです。

新しく何かを作るのではなく、今ある資源や素材に手を加え、当たり前だと思っているだけの恵みを再確認し、それを発信したいと思います。

20歳となり、人生の大きな通過点を迎えました。沢山の方のおかげであると感謝しています。この気持ちを思いやりに変え、青年団の活動を通してお返ししていきたいです。その一つとして、まずは2月16日(土)に行われる「さかだに雪まつり」を盛り上げたいと思っています。皆様、ぜひご参加ください!



平成31年4月号 No378

地元就職

玉木 智暁(伏石)

私は、大野の会社に就職して一年が経ちます。

今回、私は、一年間大野に就職して思ったこと、感じたことを書こうと思います。

まず、初めに、私は、就活時に、勤務地を大野に絞っていました。どちらかといえば、市外のほうが良いとも思っていました。

しかし、今では大野に就職してよかったと思っています。

それは、会社の方たちがとても優しく、新入社員の私に色々なことを丁寧に教えてくださるからです。そして会社内がとてもいい雰囲気であることもその一つです。

が、それ以上に一番思っていることは、「大野の方々の温かさ」です。

小売業という仕事柄、毎日、沢山の方を接客させていただいています。その中で、ミスなどしてしまった時もありました。その時、私は、相手の方が絶対に怒っていらっしゃるだろうと思っていたのですが、その方は「いいよいいよ」と言葉をかけてくださいました。そして私が一番お客様から言われて嬉しかったことは「君はこの仕事に向いている」「全然嫌な感じがしない」と言われたことです。これには、とても嬉しく頑張ろうと思うことができました。これからは、大野の方たちに励まされながら一生懸命働きたいと思っています。

私が好きな阪谷の春夏秋冬をお伝えします。

春 「へくさんぼ」大量発生。そんな阪谷の春といえば、阪谷小学校の周りを囲む桜がとてもきれいですが、それと同じぐらい見ごたえのある桜が堂嶋の川沿いにある桜並木です。落合から坂道を下って見えてくる桜並木は見ごたえのある素晴らしい景色です。

夏 布団に潜むムカデ。そんな阪谷の夏にお勧めするところはスターランドのひまわり畑です。畑一面に広がるひまわりの中で写真を撮るとインスタ映えすること間違いなし。市内外からも沢山の人が見に来てくれます。

秋 「へくさんぼ」再来。そんな阪谷の味覚の秋を代表する食べ物といえば、加藤商店さんの特大白身のフライです。揚げたてサクサクの白身のフライを店主オリジナルタルタルソースにつけて食べると絶品です。私のおすすめをぜひ食べてみてください。

冬 豪雪。そんな阪谷の冬は何といっても阪谷雪まつりでしょう。六呂師スノーパークを始め、チューブそりや大きなまくら、いろいろな体験コースも充実していました。そして、遊び疲れた後にはうらら館でひとつ風呂。冷えた体が一気に温まります。

こんな魅力あふれる阪谷地区に、若い世代の皆さんが一人でも多く戻ってきてくれることを願っています。

私は小学3年生の時にクロスカントリースキーをはじめ、大学を卒業するまで競技を続けてきました。14年も競技を続けていたのだから、その間に一度でも日の目を見ることができてよかったのだと思いますが、私の努力が足らなかったのでしょう…。私のスキー人生においては、記録に残るような秀でた成績もなければ、人の記憶に残るような感動的なエピソードもありません。ただただスキーが楽しいというだけで競技を続け、私のスキー人生は終わろうとしていました。

しかし、結果的にはこのスキーが私の人生を大きく変えることになりました。それは、今一緒に暮らしている大切な家族と出会ったことです。スキーができる自然に恵まれたこと、スキーが続けられる環境に生まれ育ったことに感謝しかありません。スキーを続けることができなかったら、私は阪谷にご縁がなかったと思います。

私は阪谷に嫁いで3年がたとうとしています。阪谷にきて、毎年楽しみにしていることのひとつに市民スキー大会があります。仕事と育児に追われる日々ですが、市民スキー大会にはこれからも体が動く限り参加したいと思っています。

最近、第2のスキー人生として、自身の健康のため、市民スキー大会のためにランニングを始めました。一緒に走ってくださる方、大歓迎です(^^)

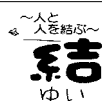
私は阪谷に嫁いで4年目、今度3歳になる子どもがいます。愛育会も入って3年目になります。愛育会では、子どもと一緒にいろんなイベントを楽しみつつ、交流の場とさせてもらっています。子どもは阪谷保育園に通っていますが、私の場合は仕事の都合で中々送り迎えに行けず、同じ保育園でもお母さん方と顔を合わせることが出来ずにいました。けれど、愛育会を通じて話す機会が増えたことは有り難かったです。市内出身ですが知り合いもおらず、人見知りの私では保育園の行事だけで打ち解けることは到底無理だったと思います…(笑)

愛育会では、バスに乗ってエンゼルランドのような子どもが遊べる場所にみんなで行ったり、阪谷夏祭りでの出店、クリスマス会などいろんなイベントがあります。また懇親会といった場で、同じ地区に住み同じ世代の子を持つお母さん方とゆっくり関われることは、子育てをしていくにもとても心強いと思います。阪谷地区の愛育会は、市街地の地区にはないようなアットホームな雰囲気がホッとさせてくれます。保育園は違えど小学校は同じなので、阪谷保育園以外に通っている子どもさんを持つお母さん方にもぜひ参加して頂きたいなと思います。

蓑道に嫁いで30年以上経ちます。はじめは知り合いの方など誰もいなかったけれど、蓑道の方々や子供つながりで知り合いが増えていきました。また、婦人会ふわわの役員や幹部役員などをさせていただくようになってからは蓑道以外の方とも知り合え、ふわわの会議に出て力を抜いて参加できるようになりました。そして公民館と言うものが近くに感じられるようになりました。地区のイベントに参加しても顔見知りの方がたくさんおられ会話が弾み、年々阪谷は私にとって居心地の良い場所になっています。

これからも皆さんと一緒に、楽しみながらいろんな行事に参加していきたいです。





令和元年9月号 No383

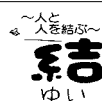
地域のつながりって心地いい

庵下 絹代 (蓑道)

普段、不規則な勤務がある仕事についている私には、地域の出来事を知る機会がほとんどありません。でも、福祉委員として、サロン活動のお世話をする事で、集落の皆さんとの交流を持つ事ができています。

以前、仕事で大野市内のお宅をお訪ねする機会がありました。準備した地図に不備があったので、家を探すのに手間取り、近くにおられた人に聞いたのです。結局、そのお宅は聞いた人の家の裏側でしたが、聞いた人は、名前を聞いても、自分の裏の家とはすぐには解らず、住宅地図を持ち出してくださって初めて分かったのです。大野の人でも、「町の人」はそんなものとびっくりしました。

私の住む蓑道では、班が違ってても、名前を聞けばすぐに道案内ができます。家族構成なども集落内の人ならだいたいわかります。それが嫌いな人もいるかもしれませんが、私には、それが心地いいのです。サロンで、参加していただいた皆さんのお話を聞いているだけでも、地域のつながりを感じることができます。福祉委員の仕事は、正直面倒と思うこともあります。任期いっぱい頑張っ、地域の一人としての生活を、これからも心地よく続けていきたいと思っています。



令和元年11月号 No385

自分の人生を振り返って…

石田 久美子 (橋爪)

この依頼を受けた時に、「何を書けばいいのかな…あ一面倒くさいなあ」と思いながらも考えていたら、私って阪谷地区の住民になって何年だろうと振り返ると27年目という年月が経っている事にちょっとびっくりしました。

今ではよく覚えてはいませんが、嫁いだころは不安のほうが多かったとは思いますが、月日が経っていく中で、子供が産まれると愛育会、学校行事、阪谷スポーツ少年団野球部保護者会、婦人会、地域のイベントでの出店、村行事等々の活動に参加しているうちにいろんな方との出会い、交流が生まれて人と人の繋がりが自然に成り立っている事に気付かされました。今では少年野球の保護者だった仲間と「チームくじゅはん」として地域のイベントで店を出すことが恒例となり、準備などで大変な一面もありますが、私にとっては楽しく参加させてもらっています。

高齢化社会が進む中、2025年には「超高齢化社会」が到来し、人生100年時代とも最近ではよく聞きます。今後の人生に不安を感じないわけでもないですが、ポジティブな気持ちで人生100年と考えたら私はまだ折り返し地点にたどり着いたところはまだ半分残っています。いつまで出来るか解りませんが、「チームくじゅはん」の一員として明るく前向きに阪谷地区を盛り上げていきたいと思っています。



令和元年10月号 No384

掃除を通して…

東 富士子 (橋爪)

私の住む橋爪地区では、週一回ぐらいのペースで集落センターとゴミステーションの掃除を各、班ごとに行っています。

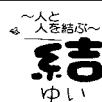
全員が集まれば、一戸に1人出席で6人です。月一回でも面倒くさいなあと思うのですが、行けば会話をしながら、楽しく協力し合って1時間もかからずに終わってしまいます。しかし、年々高齢化と共に、毎回全員出席という訳には、いかなくなってきています。

ほとんどが女性で、集まれば、普段なかなか話が出来ないことも相談できたり、情報交換出来たり、ご近所さんでも知らないことも有り、とてもいい交流の場になっています。

以前はきっと母達の井戸端会議の場で、世間話をし、噂話もし、物々交換などもして「困った時はお互い様」で助け合ってきたのではないかと思います。

最近ではIT(情報技術)の普及によって井戸端会議の形態にも変化があり「道端、路上で話す」から「電子メールで話す」になってきていますが、顔をみながらおしゃべりするのは、心地いいものです。

これからも、月一回の掃除を面倒くさがらずに、楽しみながら続けていけばいいかなと思っています。



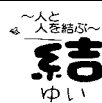
令和元年12月号 No386

コミュニケーション

宮越 幸恵 (橋爪)

私は人と話す事が苦手でしたが、結婚をして婦人会に入りました。最初は何をしゃべっていいのかわからなかったけれど、他の集落の人に話しかけられるようになって少しずつ会話ができるようになりました。

イベント、運動会などいろんな所に参加をして人との交流をしています。これからも楽しみながら続けていけばいいかなと思います。



令和2年1月号 No387

私と子供の今昔

森 好美 (不動堂)

何気なく子供たちと話をしていた。

休日には、様々な年齢の子供たちが集まり自転車で地区内を走り・川で泳ぎ・秘密基地作り・スキーを一日中していた事等、比較的自由に遊んでいた話をした。そしたら、「羨ましいいい、良いな。」と返ってきた。

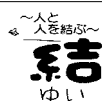
今の子供たちは、日々の学習に加え複数の習い事をしている事が多い。決して悪いとは言わない。でも、時間的にも気持ちにも余裕が無いように思える。加えて制約も多い。

私の子供たちは、外で遊んでいる時間が長い方だが、自由に来ることは私の子供の頃に比べると少ない。

だからこそ十分に遊べた私が羨ましいのかもしれない。

子供たちには、今しか出来ない経験(思い出)を沢山してほしい。特に自然の中で。

それが後の財産になるのだから。



令和2年2月号 No388

私のお気に入りの場所

山形 美春 (橋爪)

私が阪谷で一番お気に入りの場所は“石谷の坂”です。ここからの眺めは絶景だと思います。

特にお気に入りなのは、稲刈り直前の一面に広がった黄金色の田園風景と雪が積もってよく冷えた天気の良い朝の乱射する雪景色です。ほぼ毎朝、石谷の坂を下って大野を一望しながら出かけるのですが、すっきりした気持ちになります。

よく職場の人などに“最寄りのコンビニまで15分もかかるの～!”とか、“家、雪で埋もれてない??”とかいじられますが…(笑)

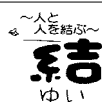
正直、高校生の時は友達と一緒に帰るとか自転車で自分で出かけるということが、なかなか困難な場所で、“なぜこんな遠いところが自分の家なの～!!”とかなり不満でした。

しかし、母になった今、車もそこまで気にせずに子供たちを遊ばせることができたり、虫取りや雪遊びなど自然を楽しむことができたり、なかなか素敵な場所だと思えるようになりました。

ただ残念なのは、このような素敵な景色や空間、おいしい農産物などを外の人たちに発信しきれてないように思えます。

このような阪谷の特色を活かしたおしゃれカフェができればいいのになあ～♡ と、常々思ってます(笑)

ぜひ誰か作ってください!!



令和2年3月号 No389

自然のあたたかさ

林 梨絵 (落合)

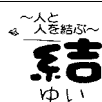
阪谷に住み始め、気付けば6年経ちました。

元々、地元は大野なのでさほど変わらないだろうと思っていましたが、自然がいっぱいあふれていてびっくりしました。夏には家の横の川でおもいきり走り回る子供達。

いろんな虫を見つれたり、ぬけがらを発見したり、周りを見渡せば、おもしろい事が沢山です。

ひいおばあちゃんの畑のお手伝いをしていると、野菜のなりかたや、とり方など色々子供に教えてくれます。そのやりとりを見ていると、あたたかい気持ちになります。

今この時代に、この、のどかな場所で生活出来る事は、ありがたい事だしこの大自然の中で子供達には、のびのび育ってほしいものです。



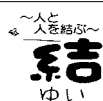
令和2年4月号 No390

阪谷小学校の桜

林 大介 (落合)

阪谷小学校周辺にある桜の木は、毎年キレイな花を咲かせてくれます。一度にあれだけの桜の花が咲くのは、とてもキレイです。今流行りのインスタ映えしそうな景色だと思います。

自分が小学校の時は、当たり前のように感じていましたが、就職し、阪谷を離れるとこの風景が当たり前でなく、特別な景色だったんだと、改めて思います。この阪谷の自然や風景を、子供達にも、また、その先の世代にも、当たり前でなく、特別な物だということをこれからも伝えていき、微力ながら残していくお手伝いを自分なりにしていきたいと思っています。



令和2年5月号 No391

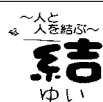
阪谷地区の皆さんへ

林 伊三夫 (落合)

今、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に加え、国内においても感染者の増加傾向が続いています。

本県でも感染者が増加していて、身近な人がいつ感染してもおかしくない非常事態で、大変不安で心配されていると思います。テレビ等で報道されているように密集・密閉・密接の三密を避けて不要不急の外出を控える事をお互い守りましょう。

阪谷には自然がいっぱいあります。もしストレスを感じたら感染防止をした上で、この豊かな自然を有効活用して農作業や散歩等でストレスを発散し、この緊急事態を頑張っって耐え抜きましょう。

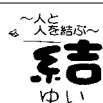


令和2年6月号 No392

林 直希 (萩ヶ野)

社会人として働き始めて2年が経過し、私は先日21歳の誕生日を迎えました。日々の仕事に追われる中、私が住むこの街大野ひいては阪谷において改めて知ることが多々あります。

ある日、風呂上りの私は、夕涼みのため家の近くを散歩していました。いつも見慣れた風景。ですが、そのあまりにも鮮やかに染め上げられた山々や棚田に目を奪われ、ああ私はこんなに綺麗なところで暮らしていたのかとため息が溢れました。すると、突然強い風に背中を押され、まるで頑張れと励まされているような気がして少し元気ができました。



令和2年7月号 No393

ふるさと

吹明 舜 (柿ヶ嶋)

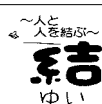
私はこの春、京都の専門学校を卒業し、坂井市で歯科技工士として働いています。

通勤時間が長いので、帰宅して車を降りた時に見える星空は、とても綺麗で癒されます。

私が住んでいる柿ヶ嶋は、ホタル散策マップで代表的な場所の一つとして記載されています。

昔に比べ、ホタルの数が減ってきていますが、今年も旅塚川でホタルを見るのが楽しみです。





令和2年8月号 No394

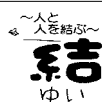
「故郷に帰って感じたこと」

多田 紗也香 (松丸)

私は大学時代を県外で過ごし、Uターン就職をして地元で暮らしています。小さい頃は近所の友達と神社で毎日のように遊び、地域の方たちに見守られ育ってきました。大人になるにつれ、友達や近所の方と顔を合わす機会が少なくなりますが、地域の方々とお会いすると「大きくなったね、久しぶりやね」と声をかけてくれます。

自分が大人になった今でも、覚えてくださっているのだと温かい気持ちになりました。私は自分が思っている以上に地域の方々に見守られ育ってきたのだと感じました。

社会人になると地元を離れて暮らすことも多く、徐々に地域の方と会う機会が少なくなるのが現実だと思います。しかしこういった地域の方との繋がりや、故郷ならではの心地よさを忘れず、大切にしていきたいと思いました。



令和2年9月号 No395

2児の父になって

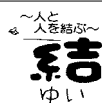
中村 英雄 (不動堂)

私には2歳と1歳の小さな子供がいます。

仕事をしている時は妻が子供たちを見てくれています。私が家に帰ってくると、子供たちが笑顔で出迎えてくれて、すごく心がほっこりします。

毎日、夜ごはんになるとなかなかごはんを食べてくなくて、時にはものすごくグズって、どうにもならなくストレスが溜まってしまいましたが、子供たちを寝かしつけて寝顔を見ると、ものすごくかわいくて、ストレスがなくなります。

どんどん大きくなって、元気に育ってほしいと願っています。



令和2年10月号 No396

大人になって分かったこと

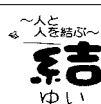
細川 悠太 (不動堂)

去年の春から不動堂で一人暮らしをしています。

前まで富田の方で暮らしていたんですが、祖父が亡くなったタイミングで戻ってきました。今までの暮らしと違うところが二つあります。

それは、村の寄り合いに参加するという事と、作業奉仕への参加です。子供の時楽しんだ村の祭りは、前日の大人の方々の準備と努力があって、楽しませてもらっていたんだと大人になってから気づきました。

今度は僕が、今の子供たちや支えてくれた高齢者の方々が楽しく生活を送れるように、村の方々に教わりながらがんばっていこうと思います。



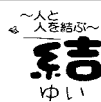
令和2年11月号 No397

細川 大毅 (不動堂)

最近クマの出没が多くなってきています。

夜間のライト点灯、子供たちの鈴の着用、大人、子供関係なくクマ対策を取りましょう。

そしてこの頃、朝、夜と冷えこみが激しくなってきています。体調を崩しやすい時期ですので、ヒーター、こたつを出している家もあると思いますが、家を出る時間がせわしくても、きちんと消して火事にならないように、気を付けましょう。

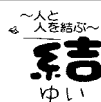


令和2年12月号 No398

細道 常貴 (南六呂師)

区長会の助言と協力があり、阪谷保育園が次年度以降も存続されることとなりました。保護者会だけでは、このような結果にはなっていなかったように思います。

今後地区の皆さまにあたたかく見守られながら、子どもたちが育っていくことを願っています。



令和3年1月号 No399

川端 真実 (八町)

先月号で、阪谷保育園保護者会長からもありましたが、この度、保育園が継続できることとなりました。

阪谷地区の皆さまのお心遣いはもちろんのこと、区長会の皆さまのお力添えがあったからこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。

“阪谷に保育園があること、それは一つの灯りなんや”という区長さんのお言葉が、希望を失いかけていた心に響き、一保護者として出来ることは何かを自身に問う活力にもなりました。

今回のことで、正直苦しみもありました。安全な環境への課題も残っています。しかし、阪谷の子ども達は地域の方々にあたたかく見守って頂いていること、それは当たり前でなく、とても幸せな事なんだと改めて感じています。

これからも色々なことを教えてください。

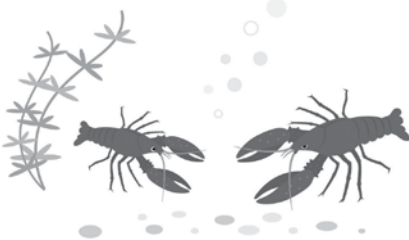
“老若男女関係なく皆が心をあわせる”そんな阪谷のあたたかい方々へ、この場を借りてお礼を申し上げます。



子どもが阪谷保育園に通っています。
毎日、保育園へ行くのが楽しみで、お迎え時に「もっと遊びたい!」と泣くほど保育園が大好きです。
毎日、自然に触れ泥んこに汚れた服、靴、葉っぱや花、砂の入った通園バッグのお土産があります。
毎日、服や靴を洗いながら、今日一日の園での様子を想像するのが私の楽しみの一つでもあります。
阪谷保育園は、自然に溢れ、先生方の手厚い教育で、家族みんなで阪谷保育園で本当に良かったと心から思っています。
こんな素敵な阪谷保育園が、これからもずっとずっと続くことを心から願っております。



私の子供は今、阪谷保育園に通っています。
そして、毎日笑顔でたくさんの洗濯物を持って、帰ってくるのです。
私は、県外出身で結婚を機にこの地へ来たので、泥だらけで遊ぶことや、枝やツルを釣り竿にして、ザリガニを釣ることなど、最初はとてもびっくりしました。
しかし、すごく嬉しそうに話をしてくれる子どもを見ていて、「この地で子育てができてとても幸せだな。」と思っています。
今では、外遊びのことは子どもの方がよく知っていて、先日はナツメがそのまま食べられる事を教えてくれました。
私も日々勉強させてもらっています。このように、たくさんの体験をさせてもらえる阪谷保育園へ、これからもずっと通わせていただきたいなと思っています。



私は、平成元年より阪谷地区スポーツ協会(当時は、体育協会)の理事を務めており、理事の中でも古株に位置しています。
また、引続き今年度も理事長職をやらせていただくことになり、通算で10年超えとなる過去にない長期就任となりました。
最初は集落選出の理事として関わるようになり、各球技大会の分団選手のお願いに苦労したことを覚えています。
最近ではどの集落も同じだと思いますが、競技経験者が少なくなってきたことや少子高齢化により、選手の高齢化が進みお願いしづらい状況にあります。
陸上の競技種目のように、ゲーム感覚を取り入れ各地区の皆さんが気軽に参加でき、楽しんでもらえる競技内容に見直していく時期ではないかと考えています。私たちスポーツ協会も企画検討していきますので、皆さんからのいろんなご意見をお待ちしています。
余談ですが、私は大野市のスポーツ推進委員もやっており、ラジオ体操をはじめ各種ニュースポーツの派遣実技指導をやっていきます。学校での親子学年行事や集落行事等でご要望があれば、公民館や市スポーツ推進課へお問い合わせください。スポーツ推進委員会としてご協力させていただきます。
また、昨年からの新型コロナウイルスの感染防止のため、地区スポーツ協会だけでなく大野市内や阪谷地区内のどの団体も活動の自粛や行事の中止をせざるを得ない状況下にあります。一日も早く新型コロナが収束し、地区内の皆さんとの交流事業が再開できることを願うばかりです。

私は福祉関係の入所施設に勤めております。
3月後半から現在(4/15)にかけて、県内の同業の入所・通所施設と学校関係で新型コロナウイルスのクラスターが発生しています。発生当時は陽性者が数人でもPCR検査を数日にかけて行う事で、かなりの陽性者が出てきます。
個人情報保護のため、はっきりと県から発表はされていませんが、クラスターになった施設の中からおそらく最悪の結果になった方が数名いると思います。
大野市にも蔓延し、いつ施設関係に入ってきてもおかしくない状態です。私の勤める施設では利用者の外出は、通院と嗜好品購入は、休日に多くなる買い物客を避けるために平日のバス外出と、近隣の散歩以外の不要な外出を控えてもらっています。
面会も制限をかけていますので、コロナを持ち込むのはおそらく職員しかいません。施設関係は集団で生活を送っているため、工夫し対策していますが、一度ウイルスが入るとおそらくクラスターは避けられません。他施設でのクラスターは他人事ではなく、ウイルスは目で見えないので毎日ビクビクしながら生活しています。
ちなみに、私の勤める施設では、5月13日から順次ワクチン接種ができる予定となっております。
新型コロナウイルスは、本人も気付かないような無症状から最



悪の結果まで、人によって症状がさまざまな不気味で大変怖いウイルスです。高齢化が進んでいる阪谷地区では、同じ状況で心理的にもつらい生活を送っている方は、たくさんいると思います。

ワクチンは完璧ではありませんが、コロナ打開策で重要な切り札の一つでもあり、皆さんもかかりつけ医師から止められていない限りは、家族や他人でも、親しくしている人や自分の事を思いやり、よく考えてできるだけワクチン接種に心掛けましょう。健康で過ごせるよう気を付けて、少しでも元の生活に戻り、より良い生活を送れるようにしていきましょう。

～人と人を結び～
令和3年6月号 №404
系吉 ゆい

最近思う事

山中 尚美（八町）

施設の調理の仕事について、35年が経ちました。

最近の世の中のいろいろな出来事の中で仕事があり、働けるという事は本当に幸せだと思います。仕事は忙しいし、自分の感情のまま相手に対して不愉快な態度をとってしまう時があります。そんな時、施設の利用者の方に「いつもありがとう」と言葉をかけてもらおうと、自分の態度に反省される事があります。

自分は、感謝ができて「ありがとう」、ごまかしたり、するしたり嘘をついて反省ができたなら「ごめんなさい」、この言葉が心から言えたら本当にすばらしいと思います。

職場でもよい上司、よい仲間に出会えたら、とてもラッキーだと思います。相性が悪い人にも嫌がらないで「ちょっと苦手」、「相性が自分にとってあまり合わない」と思うようにしています。

1日の終りに、今日はイライラして相手に嫌な思いをさせてしまった事に反省する。いろいろ助けてもらったら感謝の「ありがとう」が言えたか？「あたりまえ」ではなくちゃんと言葉にして、相手に伝えるようにしたいです。つい忘れてしまう自分に、今日も反省です。



～人と人を結び～
令和3年7月号 №405
系吉 ゆい

村上 よしみ（蓑道）

コロナ禍で増えたおうち時間を使って、前々からやりたかった「断捨離」をしました。

子供達も社会人になり学生時代に使っていた物が、不要の物になってしまいました。文房具、洋服、カバン、帽子、靴など。ただ、捨てるにはもったいない、いつか使う時が来るのではないかという思いからずっと捨てずにいましたが、思い切って処分する事にしました。

こんな不要な物でも貧しい海外の国では再利用しているとネットにあったので、とある団体に寄付する事にしました。ぎっしり段ボール5箱分、たとえば、えんぴつ1本でも必要としてくれる子供達の手に届く事を願って。

でも、「断捨離」の良いところは、不要な物を無くす事で収納スペースもすっきりして、おうちもすっきりして気持ちよく過ごせる事だと思います。全くすっきりしていない我が家は、まだまだ「断捨離」が必要です。（苦笑）

～人と人を結び～
令和3年8月号 №406
系吉 ゆい

伊藤 佐智子（松丸）

昨年初めて、自分で野菜を育ててみました。

家庭菜園といえばそうなのですが、そこそこ広い畑です。なんとなく苗を植えてできたもの。失敗して再度苗を植えたり、出来すぎたり食べごろでカラスや獣に取られたり、春になったらできなかつたり、ショックもありましたが、それなりに楽しかったこともあり、今年も一応頑張ってみようことにしました。

今年は、花も種から蒔いて育ててみました。じぶん種から蒔くといろんなことがわかり、市場に出してあるもののようにはいかず、手をかけることの大事さを学びました。来年はもっと上手にやろうと思っている次第です。

野菜作りにも欲が出て夏大根やニンジン、葉物野菜も種から蒔いて大きくなっていくのを見ると、スグリながらの草取りも面倒でなくなるものですね。すでに仕事と両立されている方は、本当に偉いなぁと思います。尊敬します。まだまだ未熟者ですが、職場にも菜園の新米がいることでお互い励みになっており、続けていきたいと思っています。



～人と人を結び～
令和3年9月号 №407
系吉 ゆい

私が見つかった事

中道 昭代（蓑道）

阪谷の蓑道に生まれ、男の子と遊ぶ方が多かったヤンチャな女の子でした。家に帰って来て、友達と家の中で遊ぶと祖母に怒られました。外で遊びなさい!!

時々、田畑の手伝い、お風呂を薪で焚く係など、嫌々していたような気がします。スターランドの一角に畑があって、ジャガイモ堀に祖母とおにぎり・おやつを持って手伝いに行った事を今でも忘れられません。小学生の頃だったからか、畑までの道のりが、とても、とても遠く感じました。そんな思い入れがあるからでしょうか、犬の散歩はスターランドひまわり畑の所に行きたくなります。

結婚して4年間ほど、千葉県で生活していた時期もありました。ラピュタの城のような所とよく言われるんですが、大野の街を一望出来る、満天の星空、今日は天空の城ですよ～と伝えてあげられる自然豊かな所。

そして暮らしている中で、近所の人の温かさを改めて実感できました。若い人達は、今は分からないかも知れないけれど、私のように少しでも地元を離れて帰って来ると分かる事がありますよ!!って伝えたいです。



これから

岸本 さゆり (松丸)

縁あって阪谷の住民となり、二人の子どもがミニバスとスポ少野球に加入してくれたおかげで、いろいろな年齢の方々と知り合い、お友達になってもらい、先輩になってもらい、家では夫、義両親、義祖母、近所の方々によくしてもらい、子どもの行事が終われば、自分のため体調管理とストレス発散のために、バトミントンやらソフトバレーボールやら思い通りにやらせてもらってきた。

思えば何もかも、まわりの理解と協力と思いやりをもらって今までできた。今までの感謝を忘れずにこれから生きていきたいと思っている。それなのになかなか言葉にして言えないでいる。

県外在住の孫は、松丸にぼくんちがあったらなあ、来るたびに言う。子どもでも帰省すると時間が止まっている、何も考えなくても焦ることなく過ごせるみたいだ。

そんなのんびりゆっくりできる場所、いつも車が通るわけでもなく、カエルとヤモリが窓に張り付いている。ヤモリは家守りともいわれる。邪険にはできない。



石塚 洋子 (萩ヶ野)

9月に入って伏石の山合いに、友達と笹寿司に使う笹の葉を取りに行きました。どこにでも生えているのかな。でも時期が遅いし、道端のは汚いし、困ったな。

そこで地元の人に教えてもらいました。今度は初めて行く所、林の奥で一人では怖い。友達に声を掛けたら、すぐ「行こう」となりました。笹の葉を取る間は鼻歌を歌いながら山の空気を吸って気持ちよくなりました。

その後、笹すし作りも無事にすみました。改めて、友達にありがとうございます。これからもよろしくね。



中谷 節子 (森本)

私事ですが、今年は母の50回忌を迎えました。多くの方々のお世話になり、またご迷惑をおかけして、何のお礼の言葉も伝えることが出来ずに、半世紀もの月日が流れてしまいました。この阪谷に生まれた事、地域のみなさまにお世話になっています事に「ありがとうございます。」と伝えたい気持ちでいっぱいです。

今、もし母がいてくれたら、あれもこれもと思うことは多々ありますが、はたまた仲良しすぎて喧嘩の日もあるのだろうと、いろいろ回想していくうちに、この全ての状況を受け入れて、前を向いていくことが、みんなが喜ぶのだろう、という結論になります。

私が幼い頃は、集落に子どもの声が響き渡り、それが当たり前の日常でした。今は日本中に少子高齢化が進み、言うに及ばず当集落にも、子どもの声は少なくなりました。

ですが、森本集落では、毎月13日にサロンがあります。この日はみなさんが集まってくれるので、集落に笑い声が聞こえます。内容はわからなくても、笑う声が聞こえるだけで心もほんわかと温かくなります。私の母は早くに他界しましたが、いつまでも自分の足で歩き、自分の手で食事ができますように…。サステナブルに、今を楽しみたいと思っています。



村口 多喜子 (伏石)

私の心の風景は・・・

田んぼの中にある大きな岩に友達と登って遊んだこと。川を畳で堰きとめたプールでどこまで潜れるか泳いだこと。おじいちゃんが火の番をしていた葉タバコの乾燥場で焼いて食べた香ばしいとうもろこし。おばあちゃんが豆腐を作っていた時に飲んだアツアツの豆乳。稲刈りの休憩に鎌で切ったみずみずしい西瓜。食べ物のことばかりになってきましたが64年間の色々な風景が思い出されます。

春の田植えの前の水田に、日中は青空や木々が、夜には家々の灯りがうつりこんだ風景。

冬には家がすっぽりとするくらい降ったあとの夜、雪明かりの凜とした中、集落の家の灯りがローソクのように暖かく揺らぎ、仕事の帰りにはむかい山の大きな月にいざなわれ家路に。自然いっぱいの大野には元気を貰ってすごしています。

民間人が宇宙旅行へ行く時代、心の風景が宇宙になる日が来てもこの大好きな風景が続いていくことを願います。



元茂 美津子 (南六呂師)

昔から伝えられる子供達の健やかな成長を願う風習としていろいろな行事があります。

お正月から床の間に飾っていた天神様に、尾頭付きの焼きガレイを供えてお参りする天神講、桃の花が咲く春らんまんの季節にはひな祭り。

雛人形と飾る桃の木は、中国では病気や厄災を寄せ付けない不老長寿の仙木とされ、節分にも桃の木の弓で鬼を追い払う儀式があったほど、とても縁起のいい植物だそうです。

五月に入ると端午の節句、秋には七五三などと、孫達の笑顔を見ながら一緒に祝える喜びがあります。

今年は地元の雲乗寺で宗祖聖人七五〇回御遠忌法要が予定されています。前回の法要時に娘や息子が稚児に参堂し、今回その子ども達も稚児の参堂列に申し込みをしました。

これも恵まれたご縁だと喜んでいます。



～阪谷に住んで想うこと～

村上 英華（蓑道）

私にとって阪谷は、伯母や叔母が嫁いでいたこともあり、子供の頃は親に連れられて遊びにきていた場所であり、大人になった私にもご縁があって嫁いできた場所でもあります。

和泉地区から来たので虫の数や野生動物（タヌキ、イノシシ、猿、etc.）への遭遇には慣れたものです。

息子と散歩しながら草花をつんだり、広い空の景色を眺めたり、とても気持ちのいい場所です。

コロナ禍ということもあり住民の皆さんと接する機会も少ない近頃ですが、近所を散歩中には声をかけてもらったり、人も温かい場所だなあと感じます。

子供達数は少ないですが、自然が豊かな環境で子育て出来ているのでとても有り難いです。

今は小さい息子にも、住んでいるこの阪谷を大好きになって成長していったほしいと願っています。



10年ひと昔と申しますが、この度、平成・令和と11年間
公民館館報の中の「結」執筆集を作成する機会を頂き、大変
光栄に思います。

作成にあたりご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

令和4年11月 吉日

食育のふるさと 阪谷をよくする会 事務局